

「南海トラフ地震の新たな防災対応に関する
県民アンケート結果」

調査報告書

2019年3月

目次

1. 調査概要	1
2. 調査結果	2
■ 回答者の属性について.....	2
■ あなたが日ごろ行っている地震への備えについて.....	12
■ 南海トラフ沿いで発生する地震について.....	21
■ 「南海トラフ地震に関連する情報」が発表されたときの対応について.	31
■ 南海トラフ地震に関する防災対応等について.....	68

1. 調査概要

(1) 目的

南海トラフ地震に関する新たな防災対応を検討するため、県民の南海トラフ地震に関する認知度、地震発生前における防災対応の許容度などについて調査を行った。調査実施に際し、意識や防災対応の違いを把握するため、津波浸水想定区域の内外かを町丁目名から判別し、対象者を抽出した。

(2) 主たる調査事項

- ・ 日頃の地震への備えに対する実施状況
- ・ 南海トラフ沿いで発生する地震に関する知識
- ・ 「南海トラフ地震に関連する情報」発表時に実施する対応
- ・ 南海トラフ地震に関する防災対応に関する意見

(3) 調査のフレームワーク

対象	県内居住者（各区市町の選挙人名簿に名前の記載のある者）
配布数	4,050 枚（市町別、浸水想定区域内外別の枚数は、下表に記載）
実施期間	2018年11月8日（発送日）～2018年12月7日（最終締切日）
回収数 （回収率）	1,612 枚／4,050 枚（回収率：39.8%）

市区町	配布枚数		市区町	配布枚数	
	浸水域外	浸水域内		浸水域外	浸水域内
静岡市葵区	159	0	袋井市	51	10
静岡市駿河区	113	116	下田市	10	57
静岡市清水区	106	284	裾野市	32	0
浜松市中区	136	92	湖西市	26	83
浜松市東区	81	0	伊豆市	18	10
浜松市西区	43	198	御前崎市	17	24
浜松市南区	27	230	菊川市	29	0
浜松市北区	53	28	伊豆の国市	30	0
浜松市浜北区	58	0	牧之原市	13	108
浜松市天竜区	18	0	東伊豆町	10	19
沼津市	97	185	河津町	10	10
熱海市	19	39	南伊豆町	10	17
三島市	70	0	松崎町	10	18
富士宮市	83	0	西伊豆町	10	28
伊東市	36	45	函南町	22	0
島田市	59	0	清水町	19	0
富士市	147	27	長泉町	22	0
磐田市	92	84	小山町	12	0
焼津市	54	215	吉田町	10	61
掛川市	69	12	川根本町	10	0
藤枝市	92	0	森町	12	0
御殿場市	55	0	静岡県合計	2,050	2,000

2. 調査結果

■ 回答者の属性について

問 1,2 エリア、性別、年齢

表 2-1 浸水域内外の回答者数

	調査数	域内	域外
全体	1,612	793	819
(%)	100.0	49.2	50.8
域内	793	793	-
(%)	100.0	100.0	-
域外	819	-	819
(%)	100.0	-	100.0

表 2-2 浸水域内外の性別回答者数

	調査数	男性	女性	無回答
全体	1,612	779	821	12
(%)	100.0	48.3	50.9	0.7
域内	793	374	412	7
(%)	100.0	47.2	52.0	0.9
域外	819	405	409	5
(%)	100.0	49.5	49.9	0.6

表 2-3 浸水域内外の年齢別回答者数

	調査数	18歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳以上	無回答
全体	1,612	94	137	214	223	385	551	8
(%)	100.0	5.8	8.5	13.3	13.8	23.9	34.2	0.5
域内	793	48	72	116	101	189	262	5
(%)	100.0	6.1	9.1	14.6	12.7	23.8	33.0	0.6
域外	819	46	65	98	122	196	289	3
(%)	100.0	5.6	7.9	12.0	14.9	23.9	35.3	0.4

表 2-4 配布枚数に対する年齢別回答者数

	調査数	18歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳以上
配布数	4050	490	534	696	598	709	1023
回答数	1604	94	137	214	223	385	551
回答割合	39.6	19.2	25.7	30.7	37.3	54.3	53.9

表 2-5 浸水域内外の性別、年齢別男女別回答者数

	調査数	男性						女性						無回答
		18歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳以上	18歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳以上	
全体	1,612	41	65	105	114	199	254	53	72	109	109	186	291	14
(%)	100.0	2.5	4.0	6.5	7.1	12.3	15.8	3.3	4.5	6.8	6.8	11.5	18.1	0.9
域内	793	21	34	56	56	93	113	27	38	60	45	96	145	9
(%)	100.0	2.6	4.3	7.1	7.1	11.7	14.2	3.4	4.8	7.6	5.7	12.1	18.3	1.1
域外	819	20	31	49	58	106	141	26	34	49	64	90	146	5
(%)	100.0	2.4	3.8	6.0	7.1	12.9	17.2	3.2	4.2	6.0	7.8	11.0	17.8	0.6

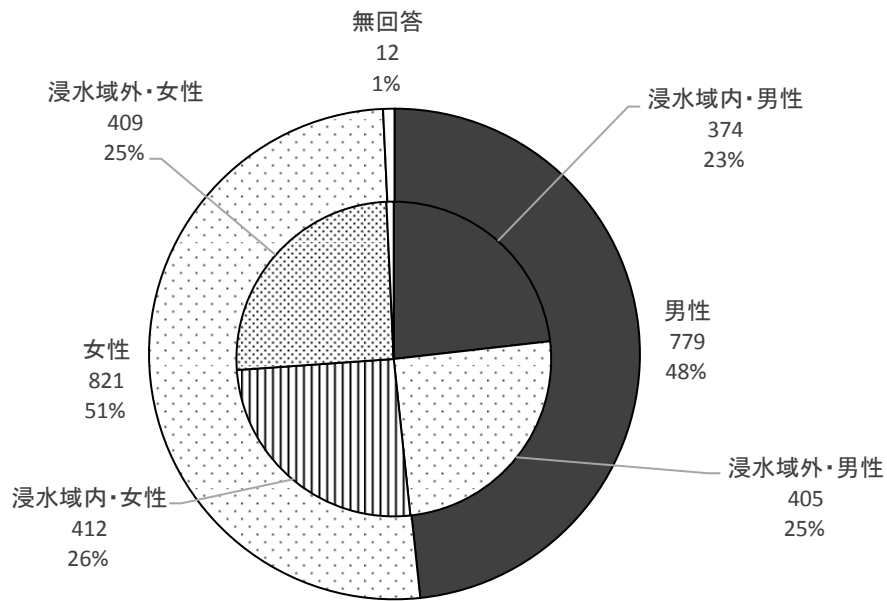


図 2-1 浸水域内外の回答者の性別割合

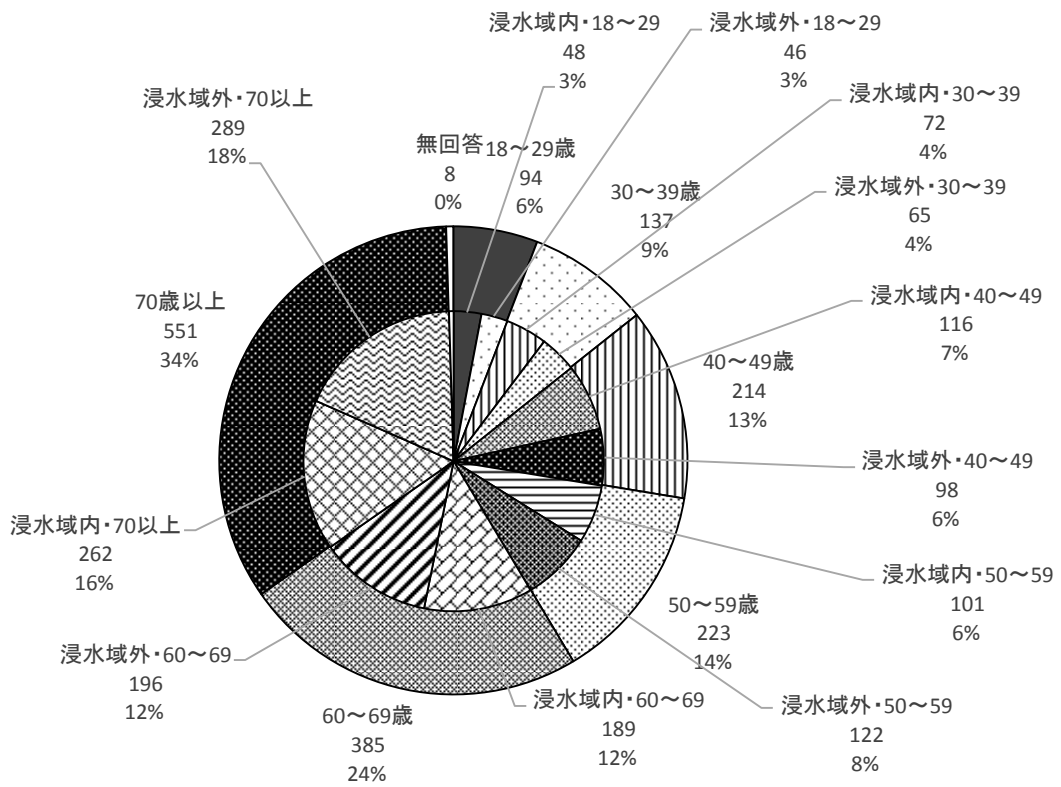


図 2-2 浸水域内外の回答者の年齢別割合

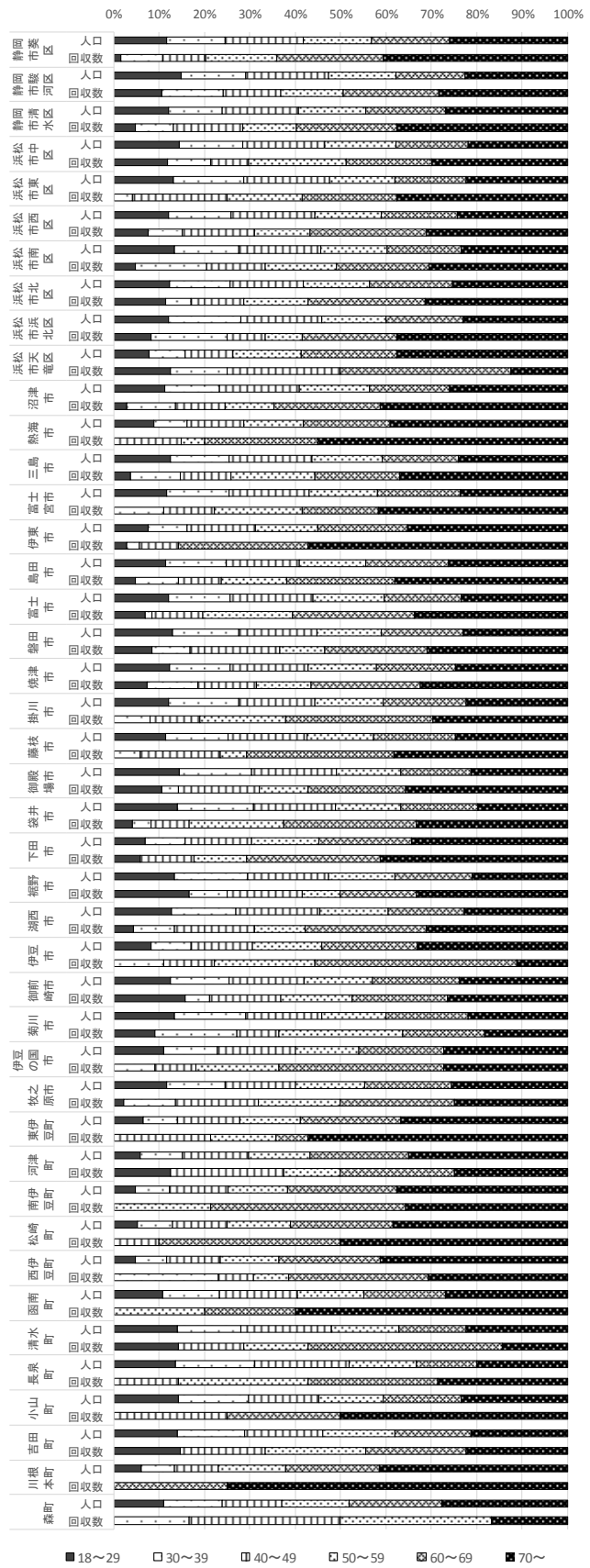
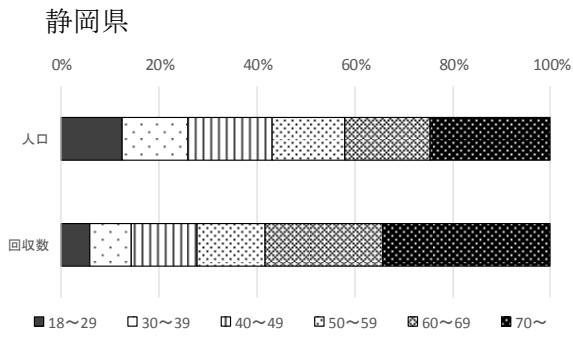


図 2-3 人口に対する年齢構成とアンケート回収数に対する年齢構成との比較

問 3 職業

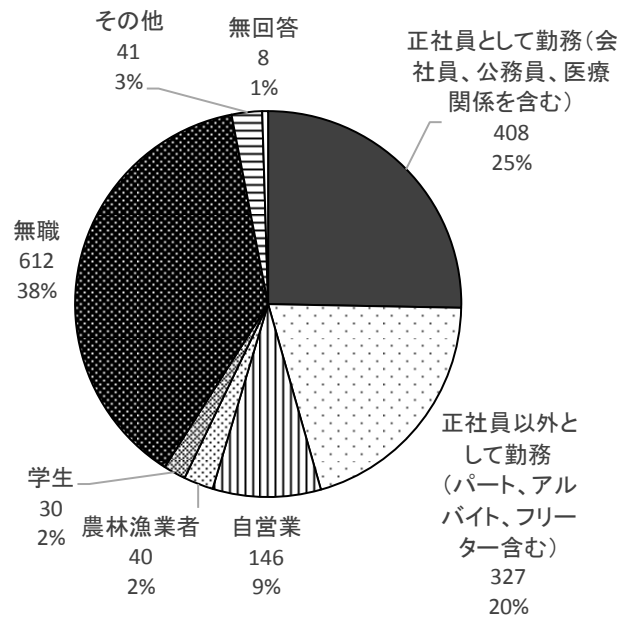


図 3-1 回答者の職業構成

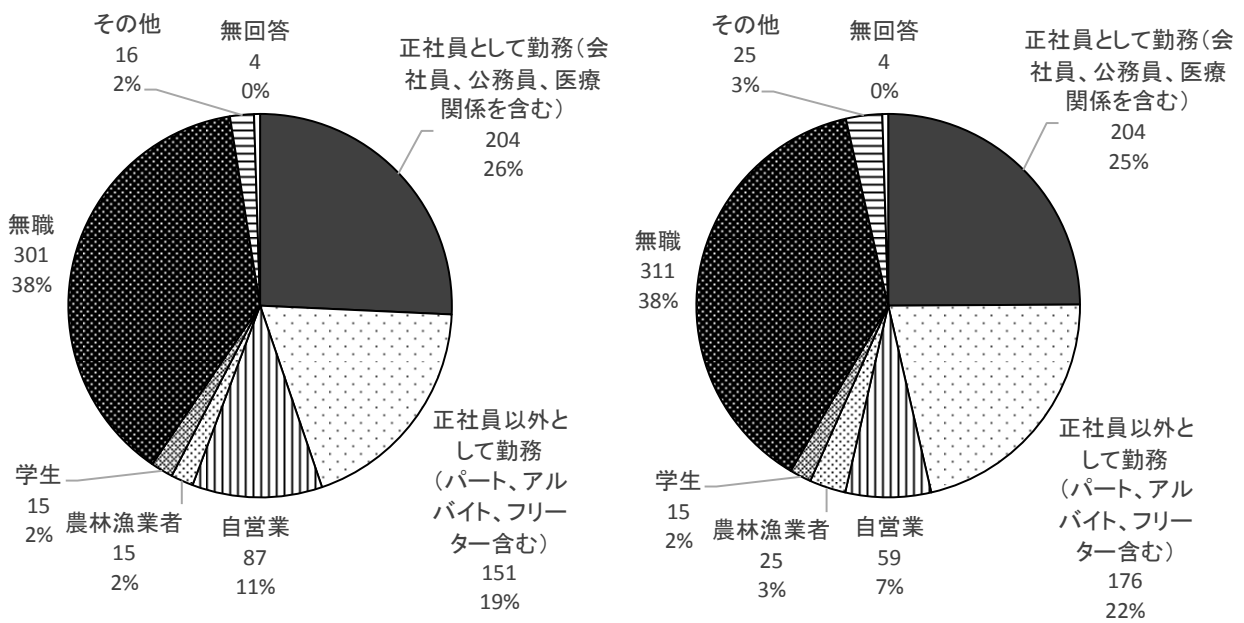


図 3-2 回答者の職業構成 (左：浸水域内、右：浸水域外)

問 4 住居形態

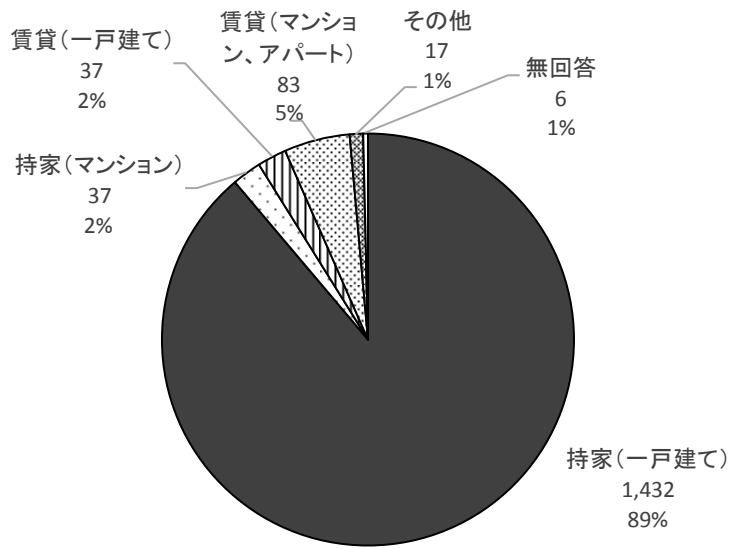


図 4-1 回答者の住居形態

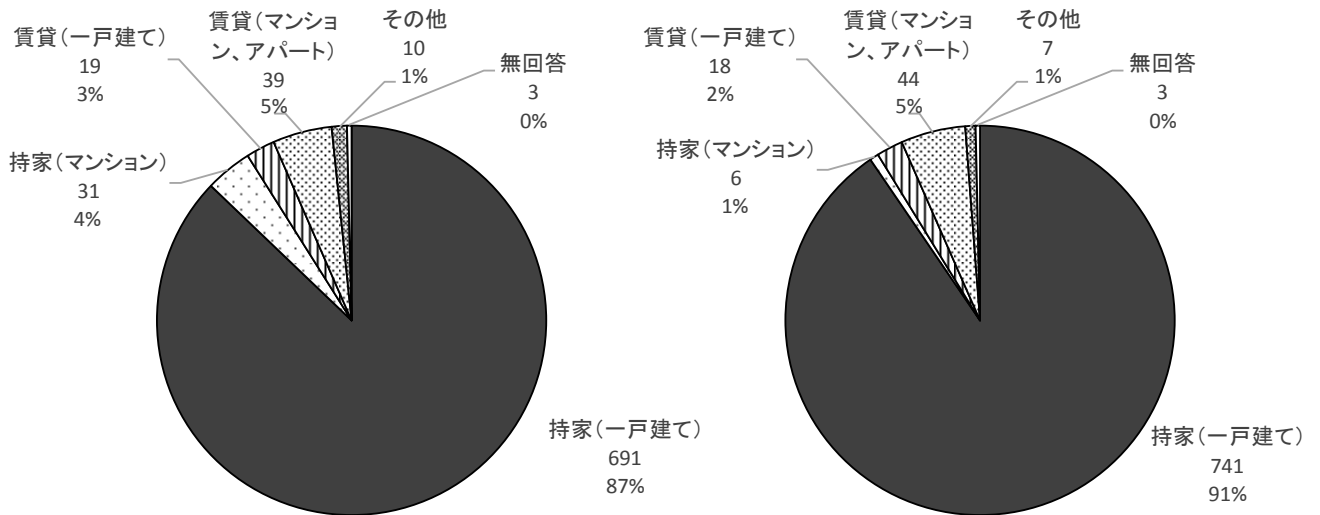


図 4-2 回答者の住居形態 (左：浸水域内、右：浸水域外)

問 5 居住地域

表 5-1 回答者の居住地域

	調査数	静岡市葵区	静岡市駿河区	静岡市清水区	浜松市中区	浜松市東区	浜松市西区	浜松市南区	浜松市北区	浜松市浜北区	浜松市天竜区	沼津市	熱海市	三島市	富士宮市
全 体	1,612	65	95	146	84	24	106	102	35	24	8	102	20	27	36
(%)	100.0	4.0	5.9	9.1	5.2	1.5	6.6	6.3	2.2	1.5	0.5	6.3	1.2	1.7	2.2
域内	793	-	46	103	36	-	83	91	15	-	-	68	13	-	-
(%)	100.0	-	5.8	13.0	4.5	-	10.5	11.5	1.9	-	-	8.6	1.6	-	-
域外	819	65	49	43	48	24	23	11	20	24	8	34	7	27	36
(%)	100.0	7.9	6.0	5.3	5.9	2.9	2.8	1.3	2.4	2.9	1.0	4.2	0.9	3.3	4.4

	伊東市	島田市	富士市	磐田市	焼津市	掛川市	藤枝市	御殿場市	袋井市	下田市	裾野市	湖西市	伊豆市	御前崎市	菊川市
全 体	35	21	71	71	108	37	34	28	24	34	12	45	9	19	11
(%)	2.2	1.3	4.4	4.4	6.7	2.3	2.1	1.7	1.5	2.1	0.7	2.8	0.6	1.2	0.7
域内	20	-	11	34	86	7	-	-	3	27	-	32	1	13	-
(%)	2.5	-	1.4	4.3	10.8	0.9	-	-	0.4	3.4	-	4.0	0.1	1.6	-
域外	15	21	60	37	22	30	34	28	21	7	12	13	8	6	11
(%)	1.8	2.6	7.3	4.5	2.7	3.7	4.2	3.4	2.6	0.9	1.5	1.6	1.0	0.7	1.3

	伊豆の国市	牧之原市	東伊豆町	河津町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町	函南町	清水町	長泉町	小山町	吉田町	川根本町	森町	無回答
全 体	11	44	14	8	14	10	13	5	7	7	4	27	4	6	5
(%)	0.7	2.7	0.9	0.5	0.9	0.6	0.8	0.3	0.4	0.4	0.2	1.7	0.2	0.4	0.3
域内	-	38	10	4	8	7	9	-	-	-	-	25	-	-	3
(%)	-	4.8	1.3	0.5	1.0	0.9	1.1	-	-	-	-	3.2	-	-	0.4
域外	11	6	4	4	6	3	4	5	7	7	4	2	4	6	2
(%)	1.3	0.7	0.5	0.5	0.7	0.4	0.5	0.6	0.9	0.9	0.5	0.2	0.5	0.7	0.2

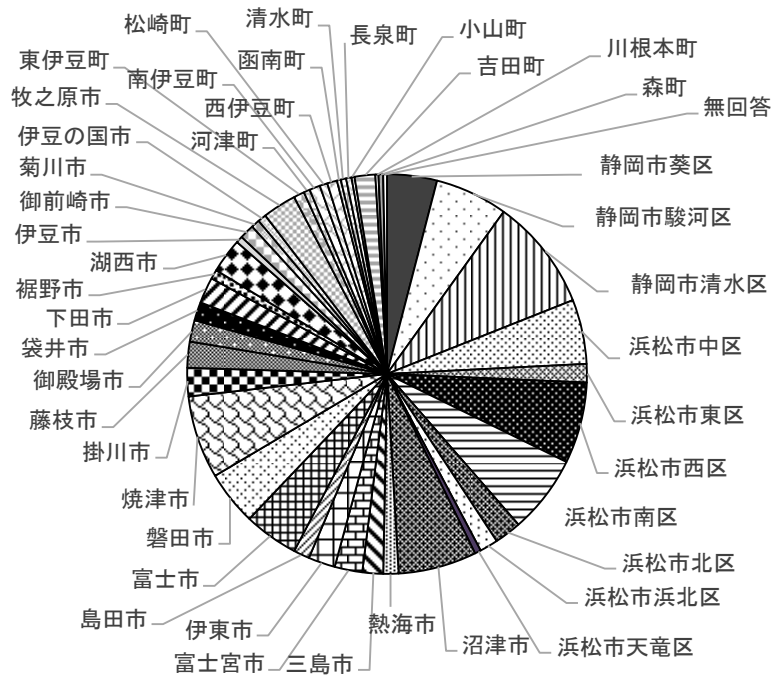


図 5-1 回答者の居住地域

問 6 ハザードマップの所持

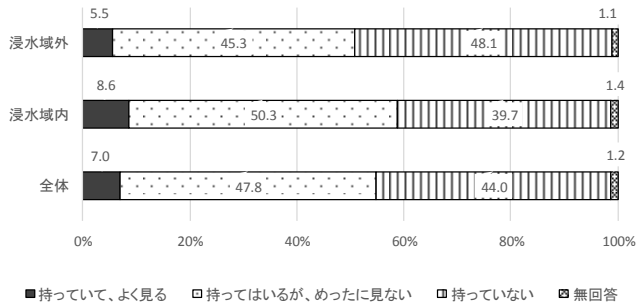


図 6-1 ハザードマップの認知度（浸水域内外別）

表 6-1 ハザードマップの認知度

	調査数	持っていて、よく見る	持ってはいるが、めったに見ない	持っていない	無回答
全体	1,612	113	770	709	20
(%)	100.0	7.0	47.8	44.0	1.2
域内	793	68	399	315	11
(%)	100.0	8.6	50.3	39.7	1.4
域外	819	45	371	394	9
(%)	100.0	5.5	45.3	48.1	1.1

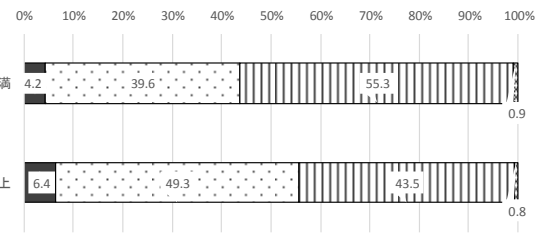
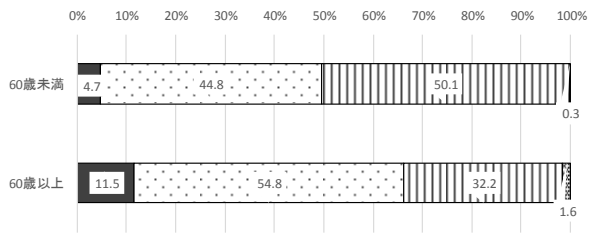


図 6-2 ハザードマップの認知度（年齢別（左：浸水域内、右：浸水域外））

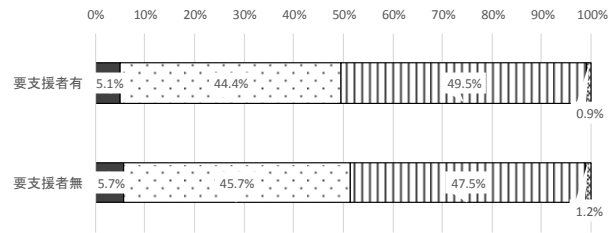
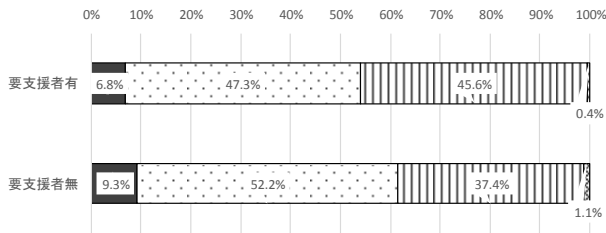


図 6-3 ハザードマップの認知度（要支援者有無別（左：浸水域内、右：浸水域外））

問 7 居住地の災害危険度

表 7-1 居住地の災害危険度の認知度

	調査数	が津波の恐れがある(想定津波浸水域で、地震が起きてから避難しても逃げ切れる)	が津波の恐れがある(想定津波浸水域で、地震が起きてからの避難では逃げ切れない)	土砂災害の恐れがある(土砂災害警戒区域、急傾斜・地すべり)	1かつ3	2かつ3	1～5のいずれにも該当しない	わからない	無回答
全体	1,612	312	444	203	23	22	449	130	29
(%)	100.0	19.4	27.5	12.6	1.4	1.4	27.9	8.1	1.8
域内	793	255	436	4	14	21	21	29	13
(%)	100.0	32.2	55.0	0.5	1.8	2.6	2.6	3.7	1.6
域外	819	57	8	199	9	1	428	101	16
(%)	100.0	7.0	1.0	24.3	1.1	0.1	52.3	12.3	2.0

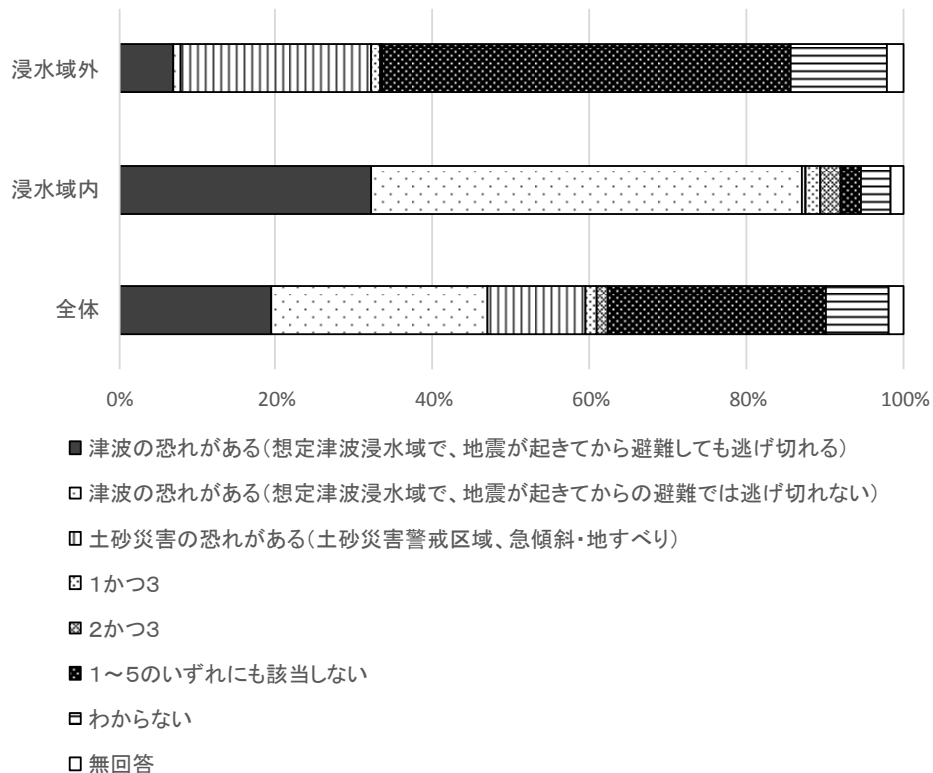


図 7-1 居住地の災害危険度の認知度

問 8 住宅の耐震性

表 8-1 住宅の耐震性

	調査数	耐震基準を満たしている(1981(昭和56)年6月以降に建築確認を受けた建物、又は、耐震補強済みの建物に住んでいる)	耐震基準を満たしていない	わからない	無回答
全体	1,612	965	311	322	14
(%)	100.0	59.9	19.3	20.0	0.9
域内	793	451	167	167	8
(%)	100.0	56.9	21.1	21.1	1.0
域外	819	514	144	155	6
(%)	100.0	62.8	17.6	18.9	0.7

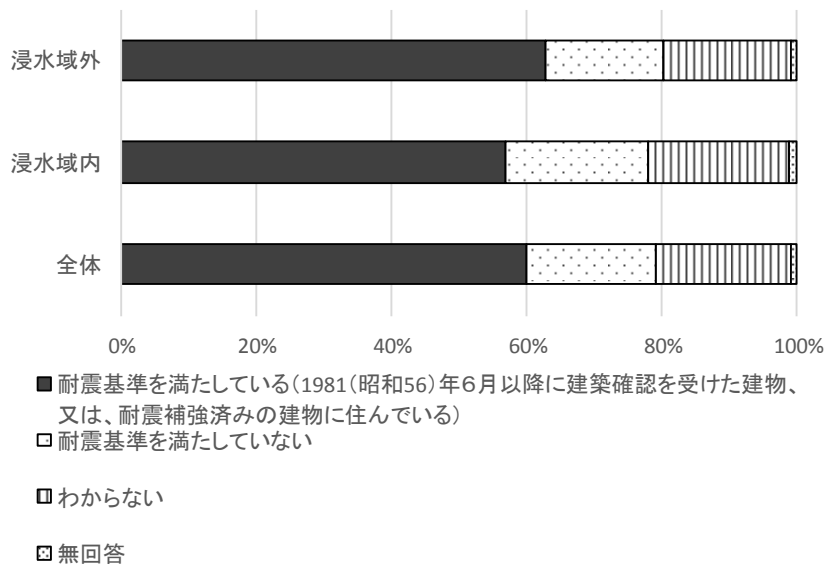


図 8-1 住宅の耐震性

問 9 避難行動要支援者の有無

表 9-1 避難行動要支援者の有無

	調査数	いる	いない	無回答
全 体	1,612	453	1,148	11
(%)	100.0	28.1	71.2	0.7
域内	793	237	548	8
(%)	100.0	29.9	69.1	1.0
域外	819	216	600	3
(%)	100.0	26.4	73.3	0.4

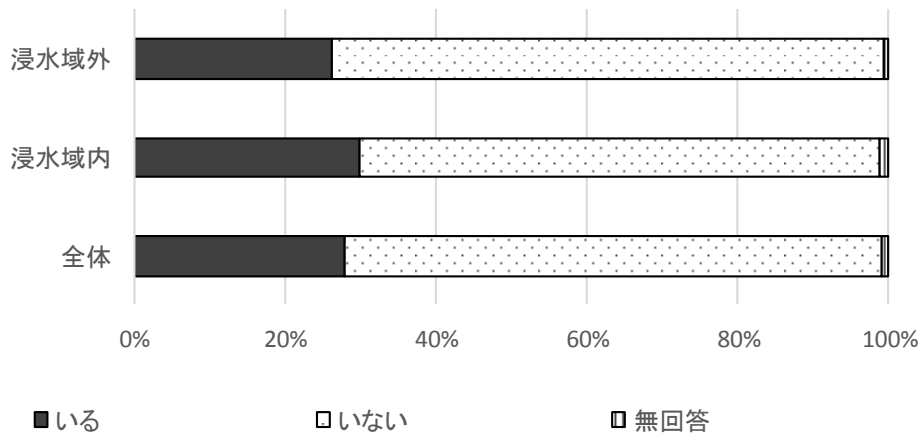


図 9-1 避難行動要支援者の有無

■ あなたが日ごろ行っている地震への備えについて

問 10 大規模な地震発生への備えとして、あなたの命を守るための対策について、下の表のそれぞれの項目の該当する欄に☑をつけてください。

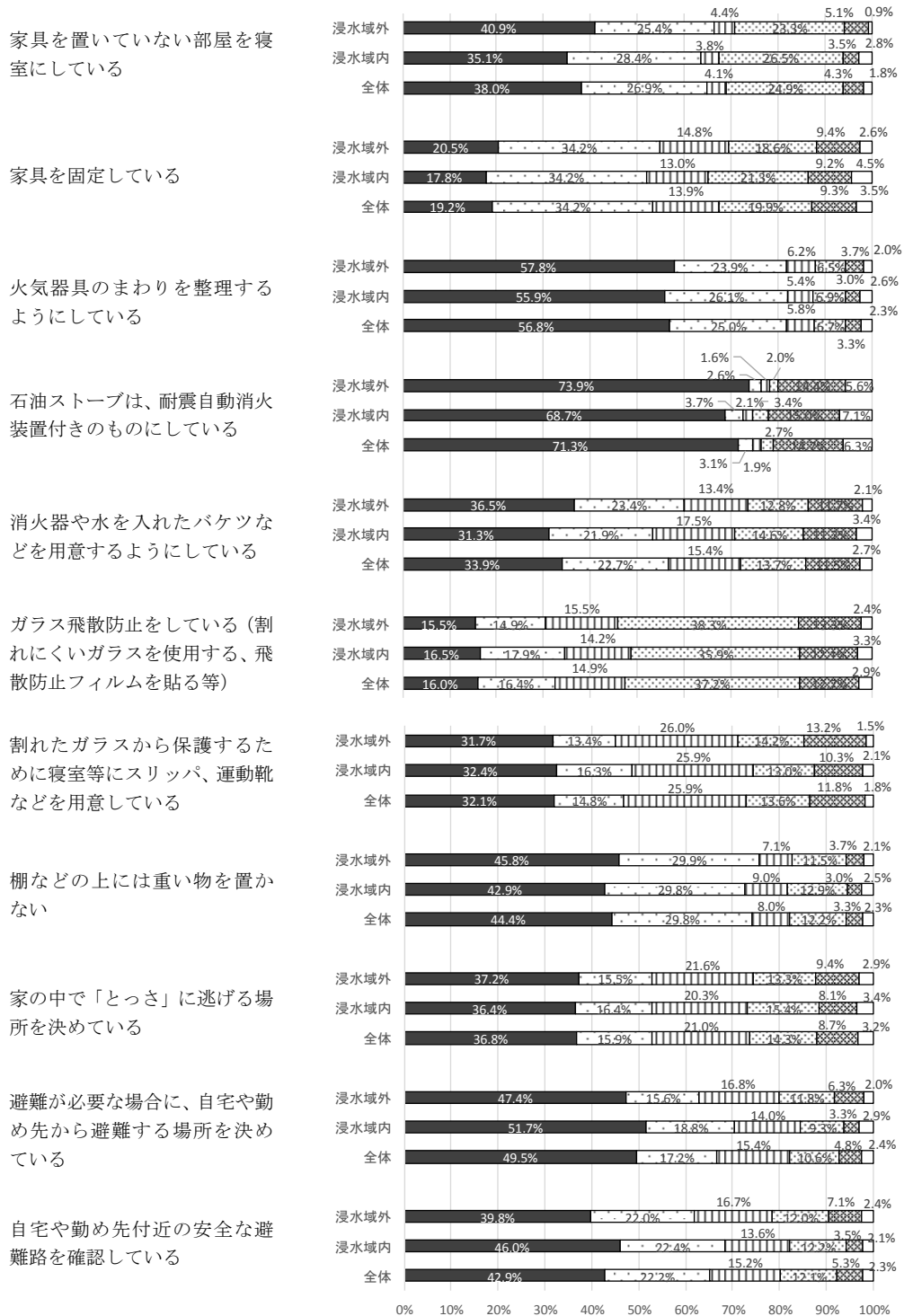


図 10-1 命を守るための対策

■実施している □一部実施できているが、十分ではない
 □実施していないが、する予定である □実施したいができない
 ⊠実施する必要がないと考えている □無回答

(浸水域内外別)

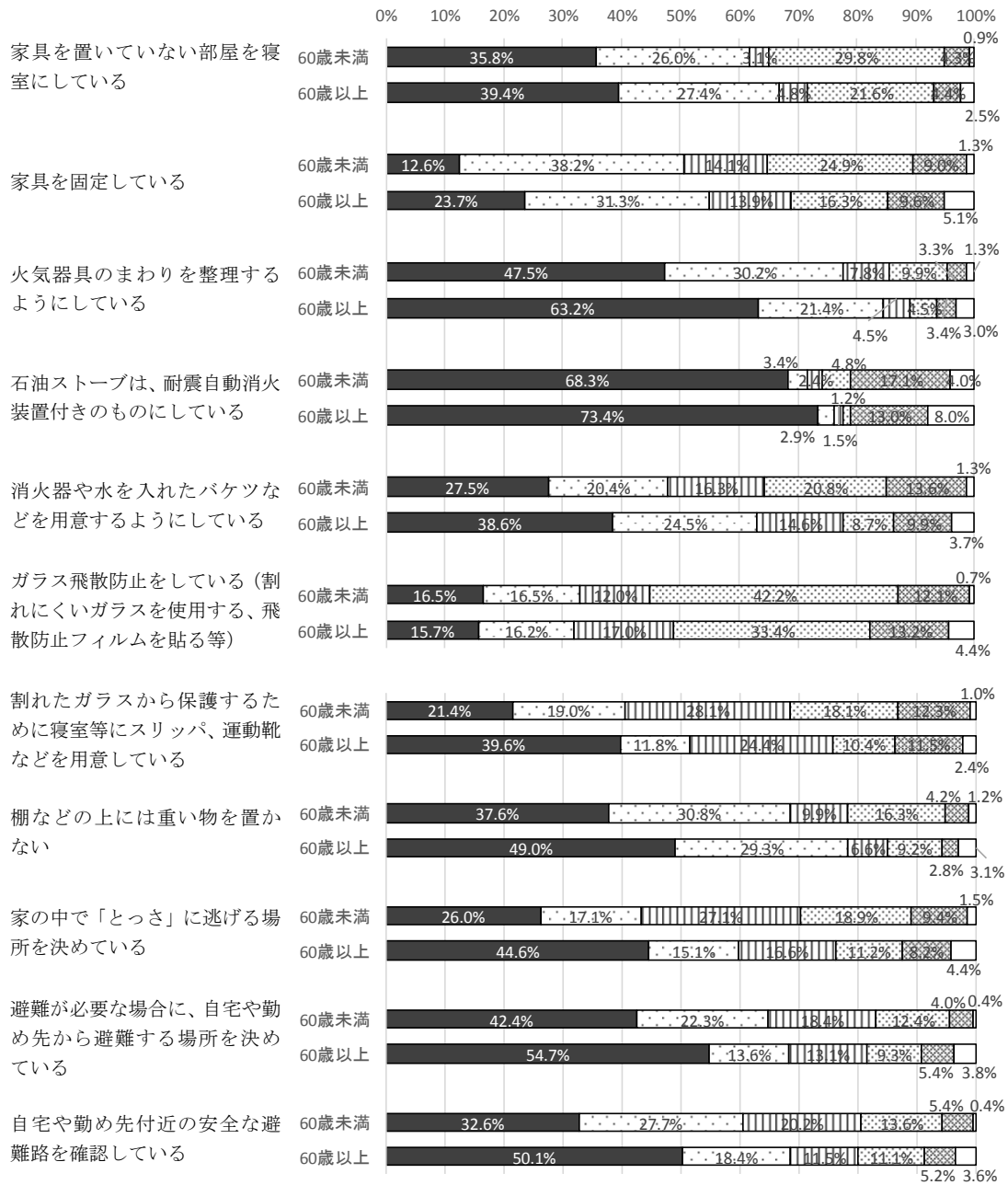


図 10-2 命を守るための対策
(年齢層別)

- 実施している
- 実施していないが、する予定である
- ▨ 実施する必要があると考えている
- 一部実施できているが、十分ではない
- 実施したいができない
- 無回答



図 10-3 命を守るための対策

- 実施している
- 一部実施できているが、十分ではない
- ▨ 実施していないが、する予定である
- 実施したいができない
- ⊠ 実施する必要がないと考えている
- 無回答

(浸水域内外別、年齢層別)

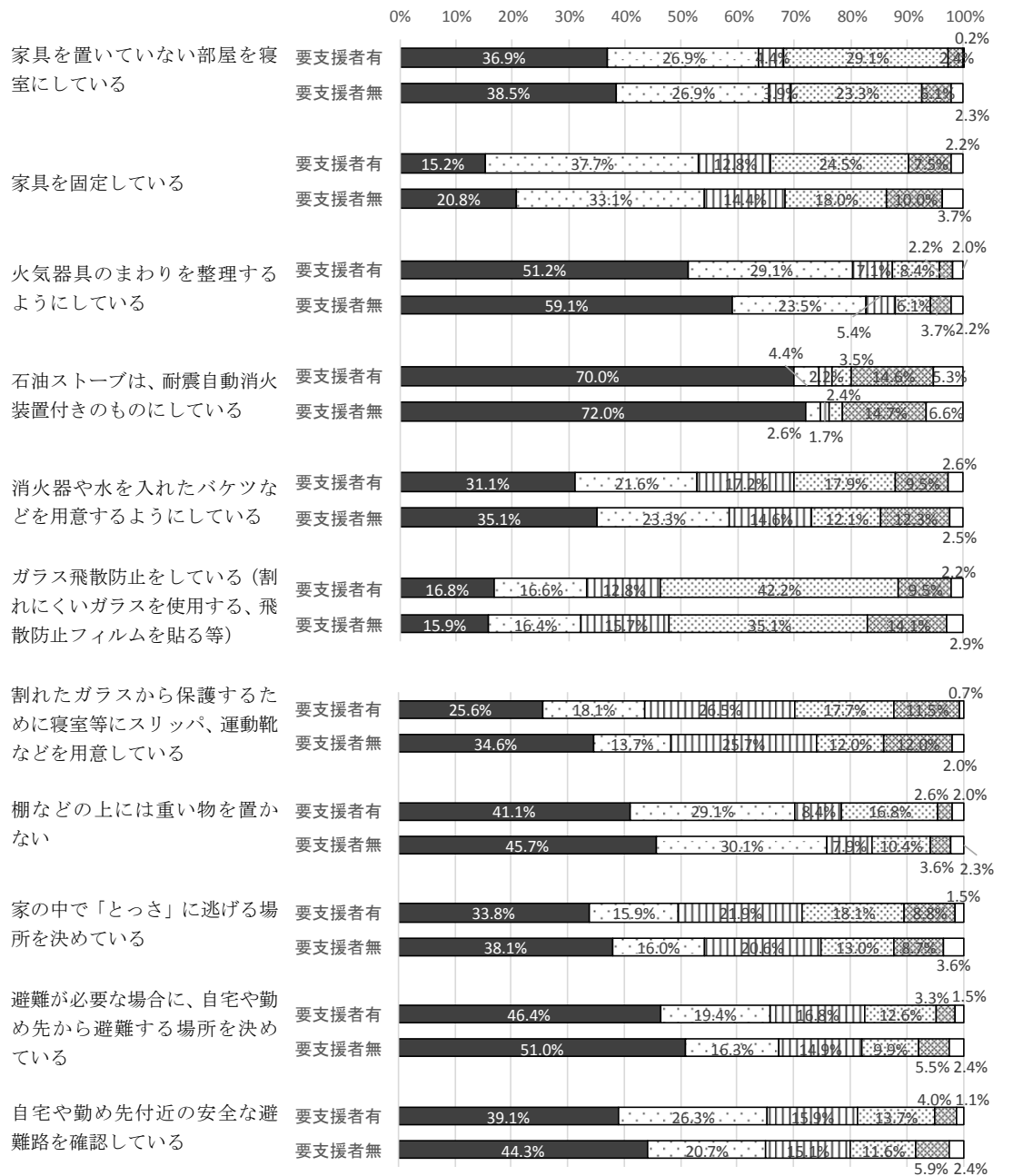


図 10-4 命を守るための対策
(要支援者有無別)

- 実施している
- 一部実施できているが、十分ではない
- 実施していないが、する予定である
- 実施したいができない
- 実施する必要がないと考えている
- 無回答



- 実施している
- 一部実施できているが、十分ではない
- 実施していないが、する予定である
- 実施したいができない
- 実施する必要がないと考えている
- 無回答

図 10-5 命を守るための対策

(浸水域内外別、要支援者有無別)

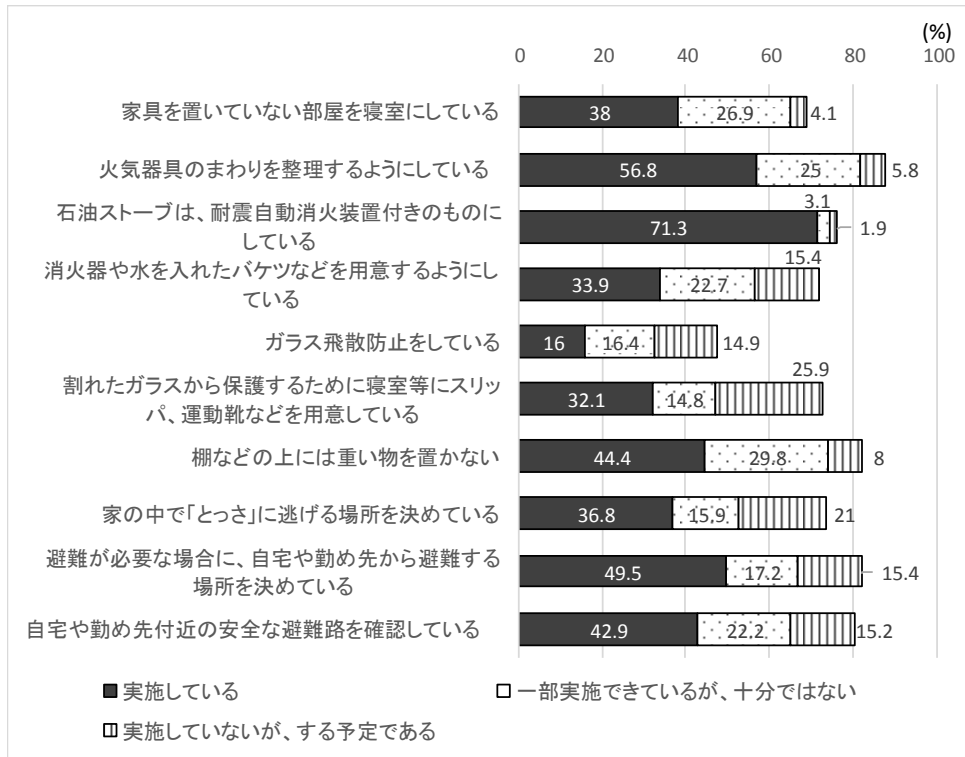
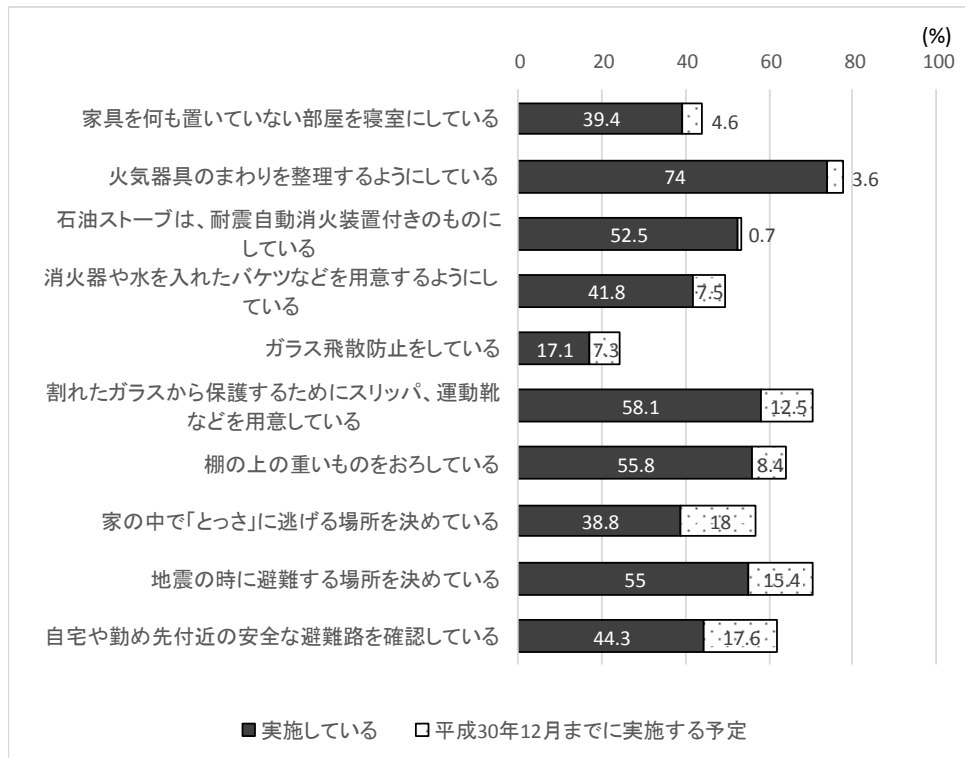
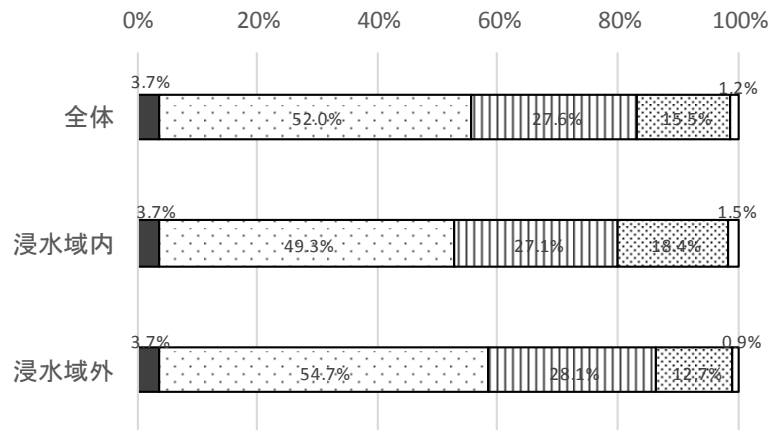


図 10-4 本調査と平成 29 年度南海トラフ地震（東海地震）
 についての県民意識調査との比較

問 11 今、突然、自宅で、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足下をすくわれ、立っていることができないような揺れ）以上の地震が発生したとしたら、あなたは身の安全を守れていると思いますか。（回答数は1つ）

表 11-1 大地震が発生した場合の身の安全

	調査数	けがもなく、安全な状態でいられると思う	けがをすることもあつかもしれないが、概ね無事だと思う	大きなけがを落とすことはないと思う	命に関わる大きなけがを落とすのではないかとと思う	無回答
全体	1,612	59	839	445	250	19
(%)	100.0	3.7	52.0	27.6	15.5	1.2
域内	793	29	391	215	146	12
(%)	100.0	3.7	49.3	27.1	18.4	1.5
域外	819	30	448	230	104	7
(%)	100.0	3.7	54.7	28.1	12.7	0.9



- けがもなく、安全な状態でいられると思う
- けがをすることもあつかもしれないが、概ね無事だと思う
- ▨ 大きなけがを落とすことはないと思う
- ▩ 命に関わる大きなけがを落とすのではないかとと思う
- 無回答

図 11-1 大地震が発生した場合の身の安全

問 11-2 問 11 で、「3. 大きなけがをするかもしれないが、命を落とすことはないと思う」または、「4. 命に関わる大きなけがをするか、命を落とすのではないかと思う」に☑を付けた方に伺います。突然地震が発生したときに、あなたの身の安全を守るために、普段から何をしておけばよいと思いますか。(複数回答可)

表 11-2 身の安全を守るために普段からすべきこと (複数回答)

	調査数	の耐震性のある建物に住む(建物の耐震化をする)	タンスや本棚、テレビなどの家具類を固定する	気象庁などが出す地震や津波に関する情報を収集する	行政が出しているハザードマップ等を見て、地域の危険性を把握しておく	いつでも避難できるよう、非常持ち出し品を準備したり、避難場所や避難経路を確認しておく	その他	無回答
全体	695	244	381	273	200	409	46	10
(%)	100.0	35.1	54.8	39.3	28.8	58.8	6.6	1.4
域内	361	128	187	146	108	219	23	6
(%)	100.0	35.5	51.8	40.4	29.9	60.7	6.4	1.7
域外	334	116	194	127	92	190	23	4
(%)	100.0	34.7	58.1	38.0	27.5	56.9	6.9	1.2

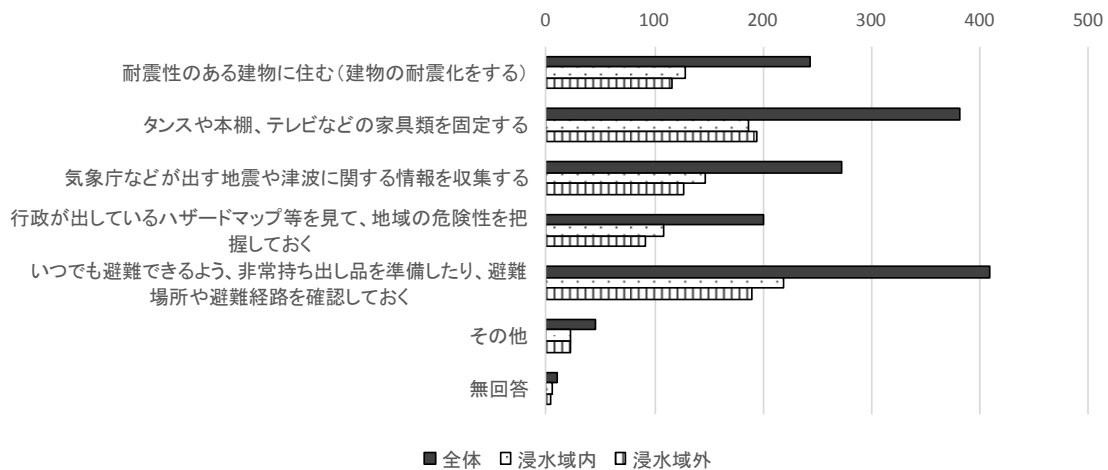


図 11-2 身の安全を守るために普段からすべきこと (複数回答)

その他（主な意見）

<浸水域内>

- ・いかに早く情報を取得し、いかに速く避難するかが大切
- ・近隣住人とのコミュニケーション
- ・足を2度手術しているため、日頃から健康管理に気を付け、自分の足で歩ける、逃げられるよう体力をつけておく。
- ・避難は出来ない（震度5弱で経験）
- ・海岸近くで高い建物も無く津波が来たら無理
- ・東日本以上の地震がきたらどうにもならない。

<浸水域外>

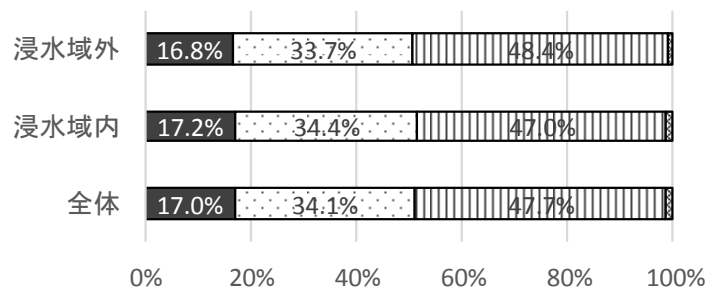
- ・引っ越す
- ・クッション等保護できる物を身近に置いておく
- ・冷静に行動できるよう、イメージトレーニング
- ・耐震補強工事を早急に実施する。予定している。
- ・飲料水を約一週間程度備蓄している。
- ・災害にあった方の話を聞く
- ・健康が不十分であれば安全な場所に行く事が出来ない。

■ 南海トラフ沿いで発生する地震について

問 12 過去に南海トラフ沿いで発生した地震には、複数の地震が数時間から数年の間隔を空け、連動して発生したものがああることをご存知ですか。(回答数は1つ)

表 12-1 過去の地震で複数の地震が発生したことの認知度

	調査数	知っている	しかし詳しい発生した時間差の間隔までは知っていません	知らなかった	無回答
全体	1612	274	549	769	20
(%)	100	17	34.1	47.7	1.2
域内	793	136	273	373	11
(%)	100	17.2	34.4	47	1.4
域外	819	138	276	396	9
(%)	100	16.8	33.7	48.4	1.1



■ 知っている

□ 詳しい時間差までは知らなかったが、間隔を空けて連続して発生したのは知っている

□ 知らなかった

⊠ 無回答

図 12-1 過去の地震で複数の地震が発生したことの認知度 (浸水域内外別)

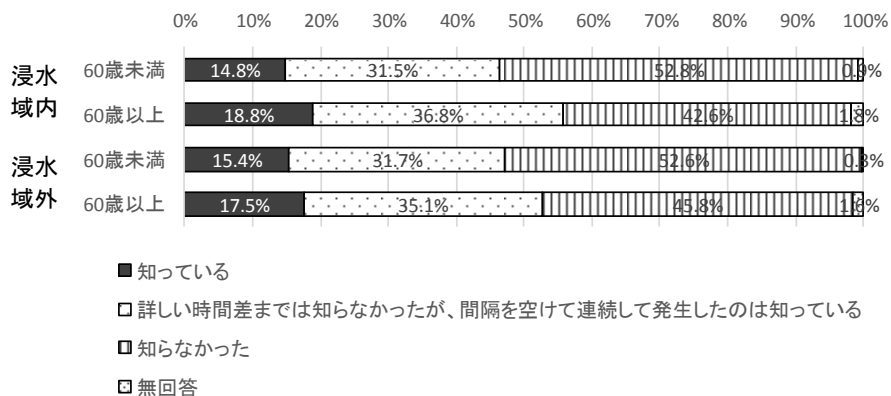


図 12-2 過去の地震で複数の地震が発生したことの認知度
(浸水域内外別、年齢別)

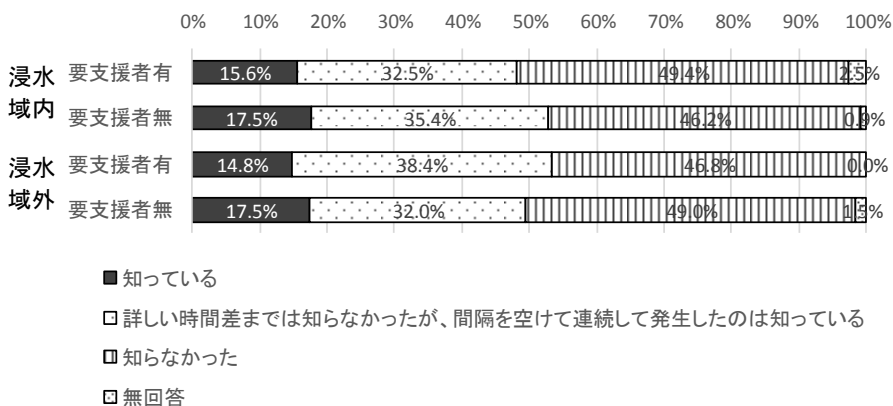


図 12-3 過去の地震で複数の地震が発生したことの認知度
(浸水域内外別、要支援者有無別)

問 13 気象庁は、平成 29 年 11 月 1 日から「南海トラフ地震に関連する情報」を公表することになりましたが、どのような情報かご存知ですか。（回答数は 1 つ）

表 13-1 「南海トラフ地震に関連する情報」の認知度

	調査数	言葉も内容も知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
全体	1612	168	956	461	27
(%)	100	10.4	59.3	28.6	1.7
域内	793	84	471	227	11
(%)	100	10.6	59.4	28.6	1.4
域外	819	84	485	234	16
(%)	100	10.3	59.2	28.6	2

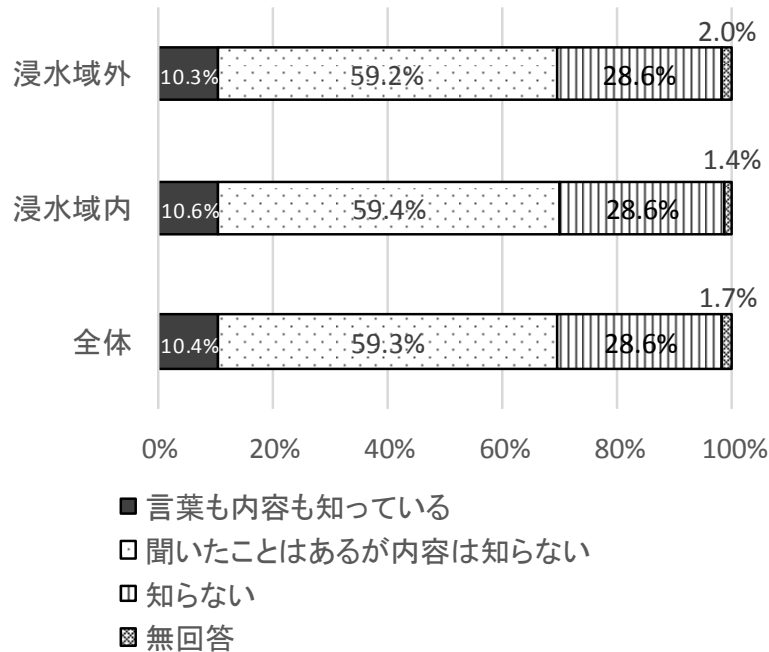


図 13-1 「南海トラフ地震に関連する情報」の認知度（浸水域内外別）

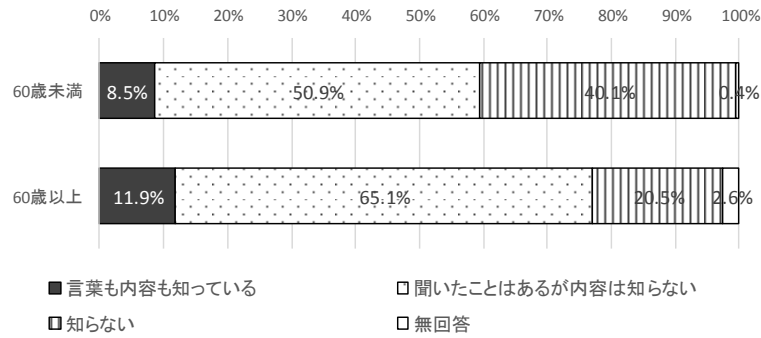


図 13-2 「南海トラフ地震に関連する情報」の認知度（年齢別）

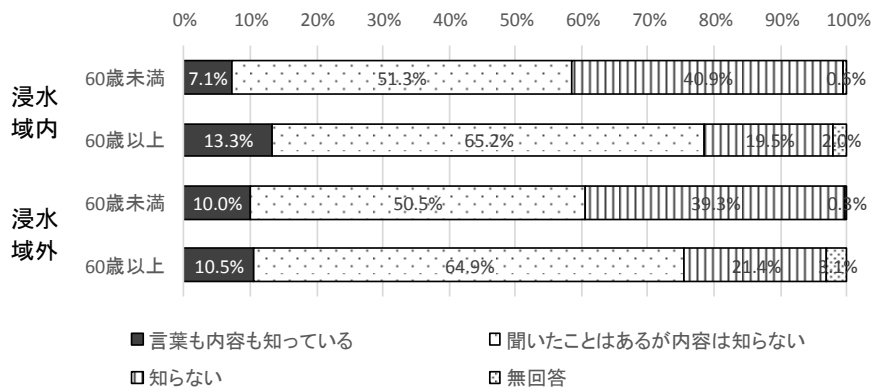


図 13-3 「南海トラフ地震に関連する情報」の認知度（浸水域内外別、年齢別）

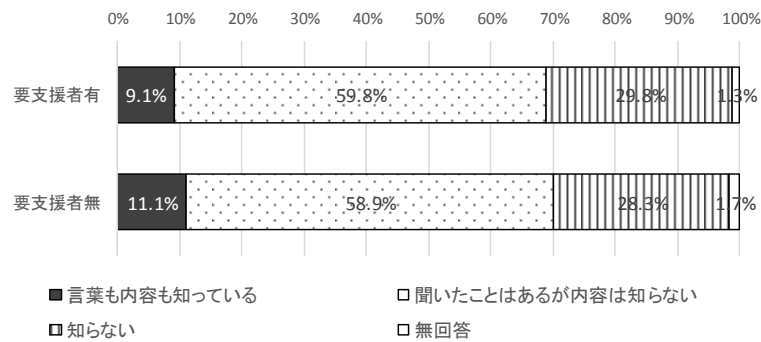


図 13-4 「南海トラフ地震に関連する情報」の認知度（要支援者有無別）

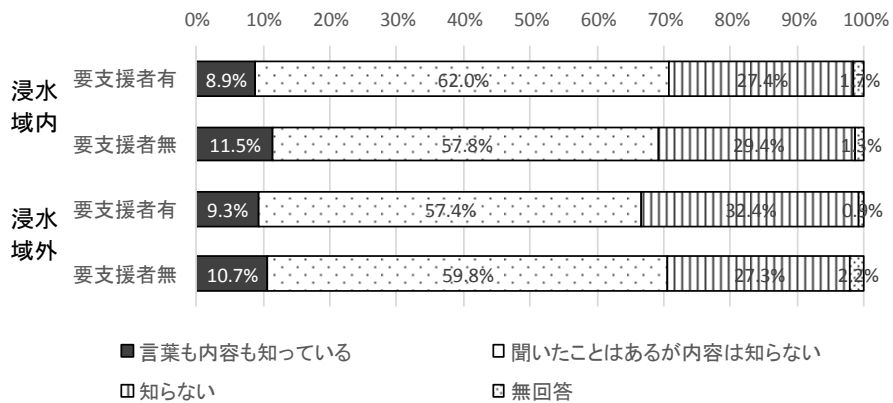


図 13-5 「南海トラフ地震に関連する情報」の認知度（浸水域内外別、要支援者有無別）

問 14 「南海トラフ地震に関連する情報」が発表されたとき、あなたはその情報をどのようにして入手できると思いますか。(複数回答可)

表 14-1 「南海トラフ地震に関連する情報」の入手方法

調査数	テレビ・ラジオなど	同報無線	インターネット(ホ等)のニュース(PC、スマホ)	新聞・雑誌など	市町からの電子メール	緊急速報メール(エリアメール)	SNS やツイッターなど	無回答
1612	1368	468	700	391	285	848	154	13
100	84.9	29	43.4	24.3	17.7	52.6	9.6	0.8
793	675	235	335	175	147	426	78	9
100	85.1	29.6	42.2	22.1	18.5	53.7	9.8	1.1
819	693	233	365	216	138	422	76	4
100	84.6	28.4	44.6	26.4	16.8	51.5	9.3	0.5

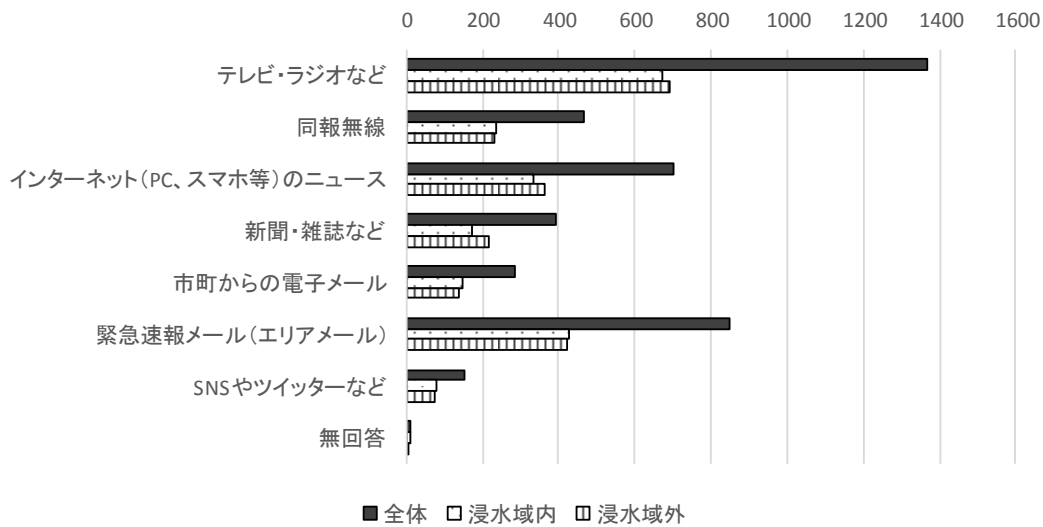


図 14-1 「南海トラフ地震に関連する情報」の入手方法 (浸水域内外別)

	調査数	テレビ・ラジオなど	同報無線	インターネット（PC、スマホ等）のニュース	新聞・雑誌など	市町からの電子メール	緊急速報メール（エリアメール）	SNSやツイッターなど	無回答
全体	1,612	1,368	468	700	391	285	848	154	13
(%)	100.0	84.9	29.0	43.4	24.3	17.7	52.6	9.6	0.8
域内 60歳未満	337	257	81	214	56	67	219	66	6
(%)	100.0	76.3	24.0	63.5	16.6	19.9	65.0	19.6	1.8
60歳以上	451	413	154	120	116	80	206	12	3
(%)	100.0	91.6	34.1	26.6	25.7	17.7	45.7	2.7	0.7
域外 60歳未満	331	251	73	225	64	57	224	62	1
(%)	100.0	75.8	22.1	68.0	19.3	17.2	67.7	18.7	0.3
60歳以上	485	439	160	139	149	80	197	13	3
(%)	100.0	90.5	33.0	28.7	30.7	16.5	40.6	2.7	0.6

表 14-2 「南海トラフ地震に関連する情報」の入手方法
(浸水域内外別、年齢別)

	調査数	テレビ・ラジオなど	同報無線	インターネット（PC、スマホ等）のニュース	新聞・雑誌など	市町からの電子メール	緊急速報メール（エリアメール）	SNSやツイッターなど	無回答
全体	1,612	1,368	468	700	391	285	848	154	13
(%)	100.0	84.9	29.0	43.4	24.3	17.7	52.6	9.6	0.8
域内 要支援者有	237	196	63	108	53	45	128	32	5
(%)	100.0	82.7	26.6	45.6	22.4	19.0	54.0	13.5	2.1
要支援者無	548	471	170	225	119	102	294	46	4
(%)	100.0	85.9	31.0	41.1	21.7	18.6	53.6	8.4	0.7
域外 要支援者有	216	181	54	107	49	37	126	21	0
(%)	100.0	83.8	25.0	49.5	22.7	17.1	58.3	9.7	0.0
要支援者無	600	509	178	258	166	101	296	55	4
(%)	100.0	84.8	29.7	43.0	27.7	16.8	49.3	9.2	0.7

表 14-3 「南海トラフ地震に関連する情報」の入手方法
(浸水域内外別、要支援者の有無別)

問 15 「南海トラフ地震に関連する情報」が発表されることに伴って、「警戒宣言」及び東海地震のみに関する情報※が発表されなくなったことをご存知ですか。（回答数は1つ）

表 15-1 「警戒宣言」及び東海地震のみに関する情報が発表されなくなったことの認知度

	調査数	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
全体	1612	282	349	961	20
(%)	100	17.5	21.7	59.6	1.2
域内	793	133	169	481	10
(%)	100	16.8	21.3	60.7	1.3
域外	819	149	180	480	10
(%)	100	18.2	22	58.6	1.2

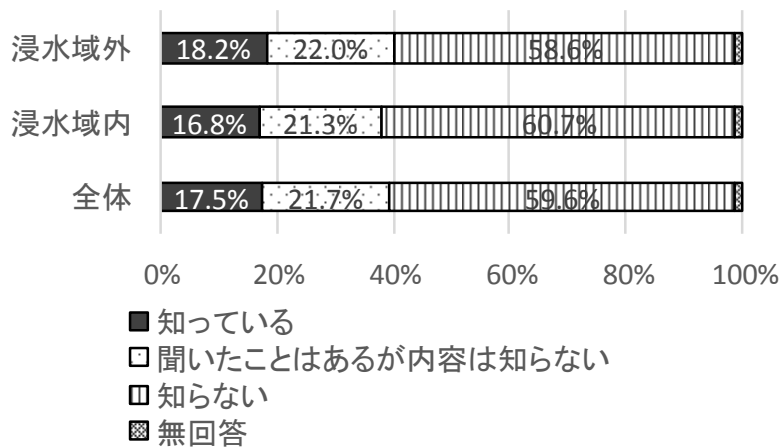


図 15-1 「警戒宣言」及び東海地震のみに関する情報が発表されなくなったことの認知度（浸水域内外別）

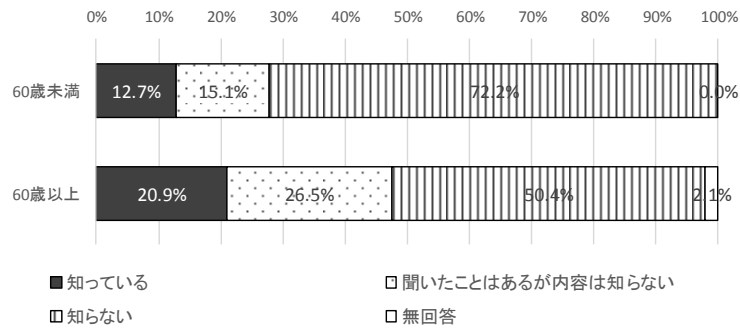


図 15-2 「警戒宣言」及び東海地震のみに関する情報が発表されなくなったことの認知度（年齢別）

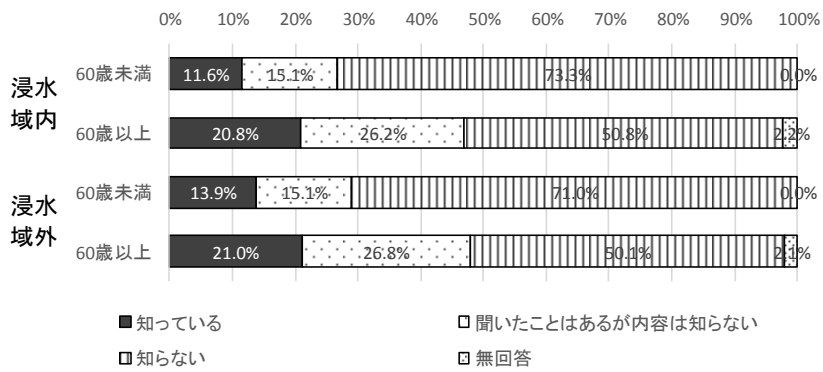


図 15-3 「警戒宣言」及び東海地震のみに関する情報が発表されなくなったことの認知度（浸水域内外別、年齢別）

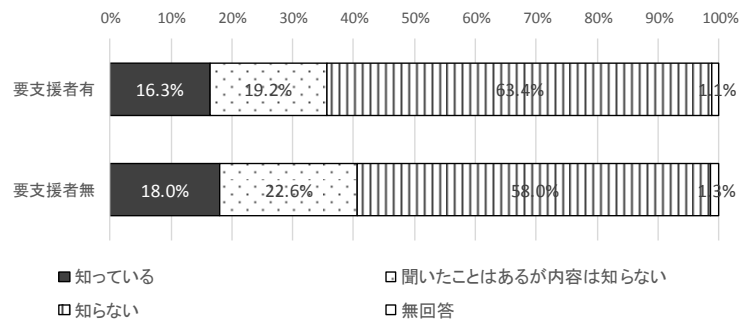


図 15-4 「警戒宣言」及び東海地震のみに関する情報が発表されなくなったことの認知度（要支援者有無別）

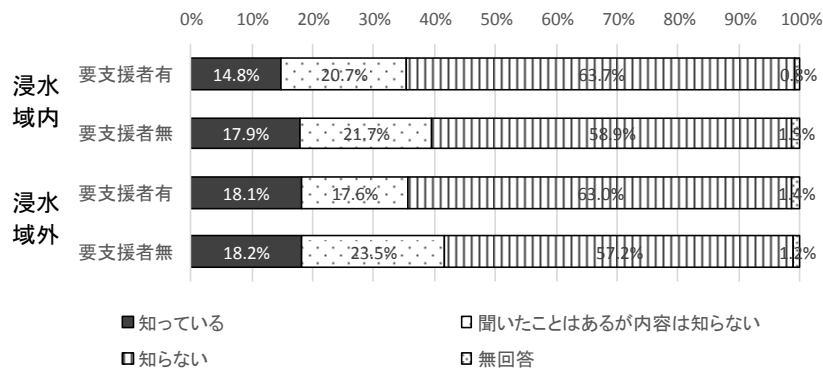


図 15-5 「警戒宣言」及び東海地震のみに関する情報が
発表されなくなったことの認知度（浸水域内外別、要支援者有無別）

■ 「南海トラフ地震に関連する情報」が発表されたときの対応について

ゆっくりすべりを想定した対応

問 16 このような状況の中で、あなたは何をしますか。下の表のそれぞれの項目について、該当する欄に☑をつけてください。(複数回答可)

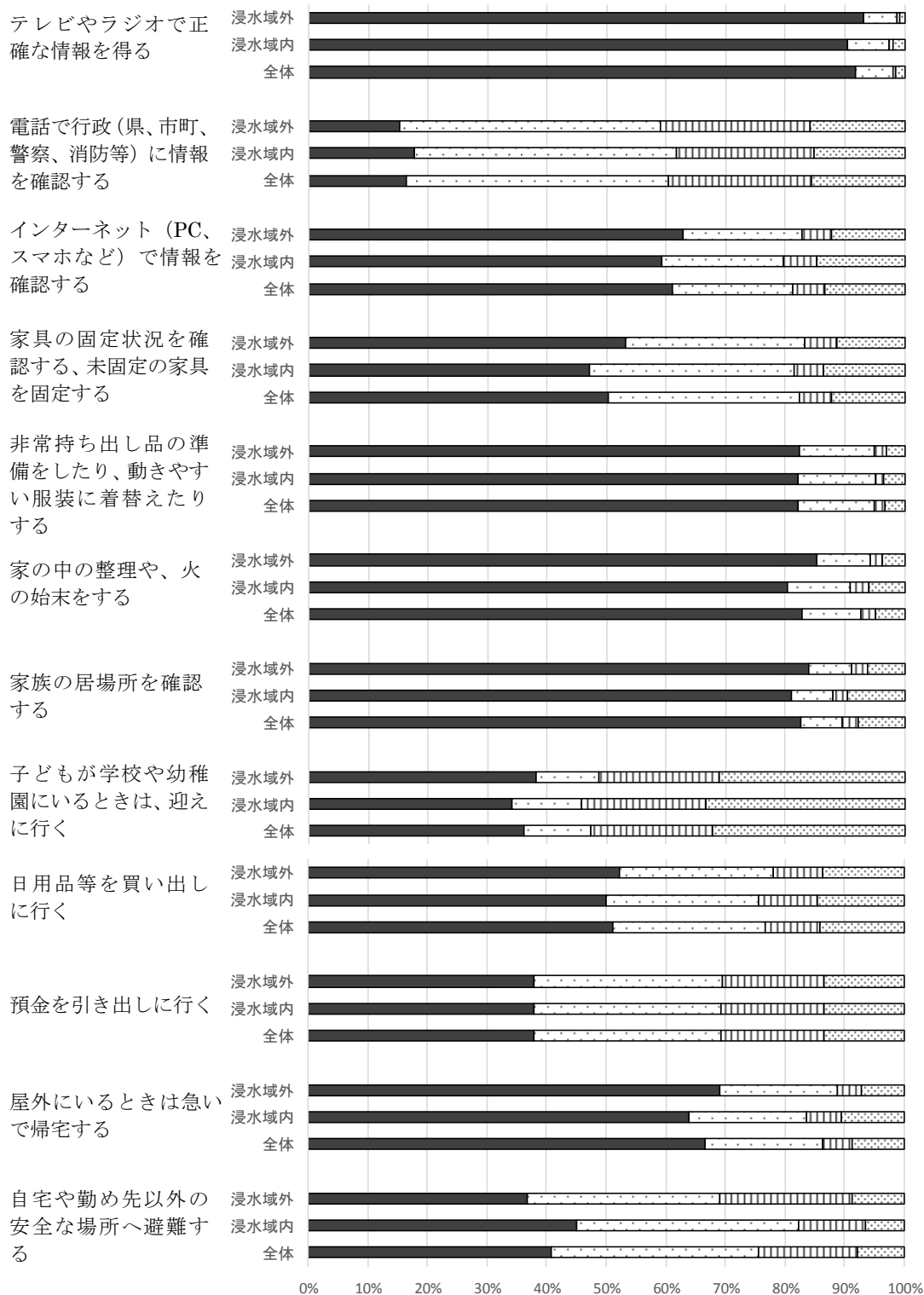




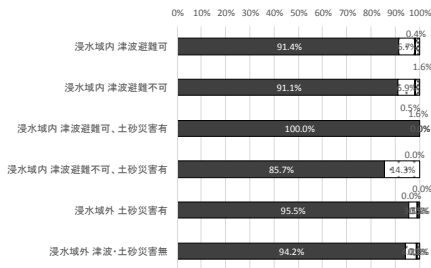
図 16-2 ゆっくりすべりを想定した対応（浸水域内外別・年齢別）



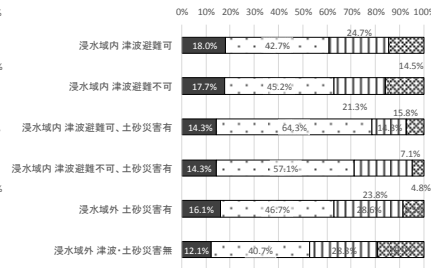
図 16-3 ゆっくりすべりを想定した対応（浸水域内外別・要支援者有無別）



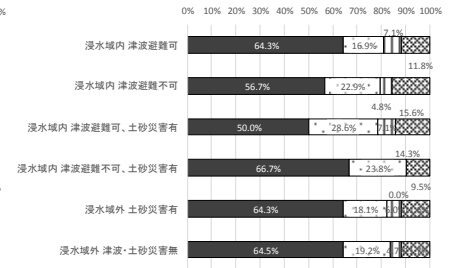
図 16-4 ゆっくりすべりを想定した対応（浸水域内外別・耐震性有無別）



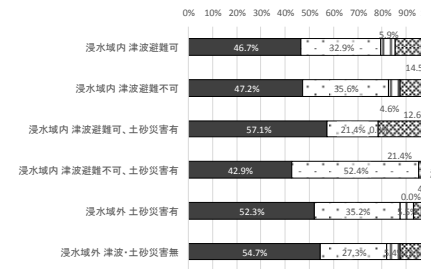
テレビやラジオで正確な情報を得る



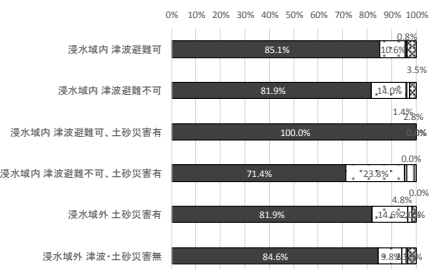
電話で行政（県、市町、警察、消防等）に情報を確認する



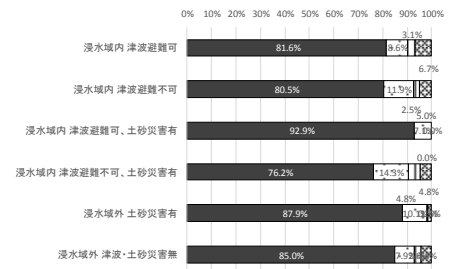
インターネット（PC、スマホなど）で情報を確認する



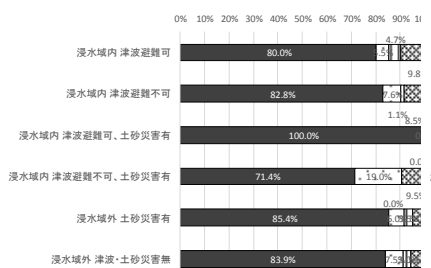
家具の固定状況を確認する、未固定の家具を固定する



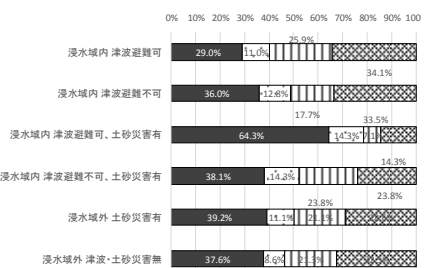
非常持ち出し品の準備をしたり、動きやすい服装に替えたりする



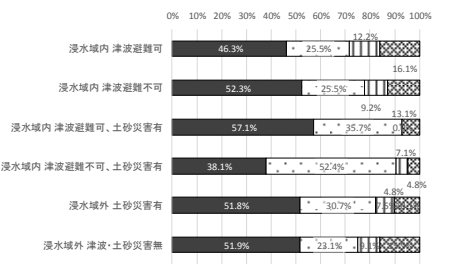
家の中の整理や、火の始末をする



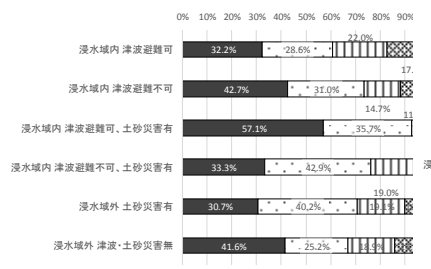
家族の居場所を確認する



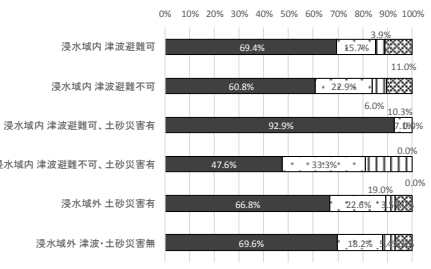
子どもが学校や幼稚園にいるときは、迎えに行く



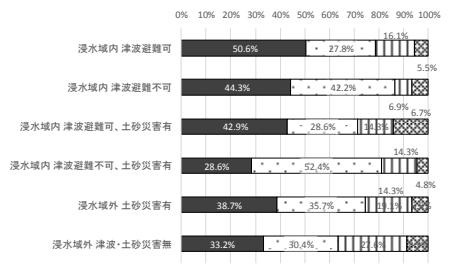
日用品等を買出しに行く



預金を引き出しに行く



屋外にいるときは急いで帰宅する



自宅や勤め先以外の安全な場所へ避難する

- 実施する
- 実施したいが、おそらくできないと思う
- 実施する必要がないと考えている
- 無回答

図 16-5 ゆっくりすべりを想定した対応（浸水域内外別・危険性認識有無別）

ゆっくりすべりを想定した対応

問 16-2 問 16 で示した 1～12 の項目以外に、地震発生に備えて行う方がよいと思うことはありますか。

表 16-1 その他の地震発生に備え行うべきこと（浸水域内外別）

	調査数	ある	ない	無回答
全体	1612	178	672	762
(%)	100	11	41.7	47.3
域内	793	64	346	383
(%)	100	8.1	43.6	48.3
域外	819	114	326	379
(%)	100	13.9	39.8	46.3

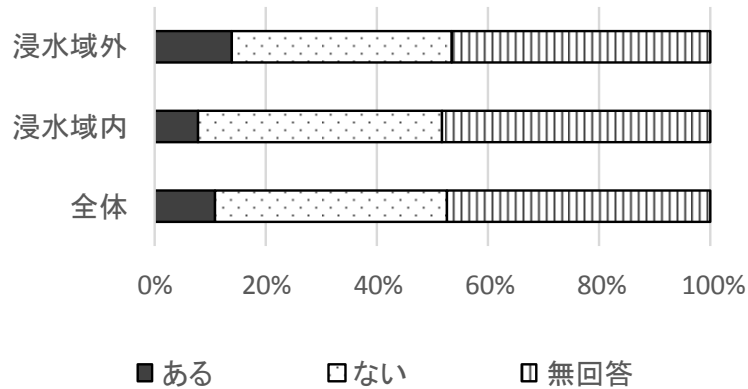


図 16-6 その他の地震発生に備え行うべきこと（浸水域内外別）

表 16-2 その他の地震発生に備え行うべきこと (浸水域内外別、年齢別)

	調査数	ある	ない	無回答
全 体	1,612	178	672	762
(%)	100.0	11.0	41.7	47.3
域内 60歳未満	337	32	138	167
(%)	100.0	9.5	40.9	49.6
60歳以上	451	31	206	214
(%)	100.0	6.9	45.7	47.5
域外 60歳未満	331	43	131	157
(%)	100.0	13.0	39.6	47.4
60歳以上	485	71	195	219
(%)	100.0	14.6	40.2	45.2

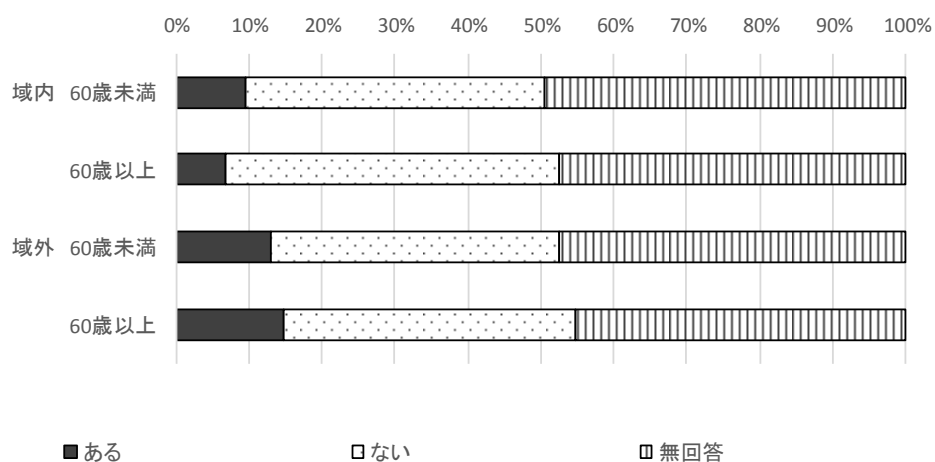


図 16-7 その他の地震発生に備え行うべきこと (浸水域内外別、年齢別)

具体的に備え行うべきこと（主な回答）

<浸水域内>

- ・水や食料品の備蓄、救命胴衣の準備
- ・薬の確認
- ・通帳や大切な書類をまとめる
- ・車のガソリン補給
- ・感震ブレーカを設置（取付工事）しておく。
- ・“避難場所が無い”という発信をして現状を知ってもらう、かえてもらう
- ・車にも、必要な物を積む。
- ・家族との連絡確保と情報共有
- ・親類や近所への声かけ 避難経路、避難場所の確認。
- ・特に遠くの親せき、知人とも事前に連絡し話し合っておく
- ・全てにおいて、まず自分自身の身の確保
- ・地域の役員との情報交換
- ・自治体による、前倒しの避難。（高齢者）
- ・ペットがいるので餌やペットを入れるケースの確認 ペットを置く場所

<浸水域外>

- ・水、食べ物、発電機
- ・車のガソリン補給、ガソリン予備確保、卓上コンロのガスボンベ確保
- ・ふだん利用している道沿いの高台など、移動中に被災した場合の逃げる場所を確認。
- ・交通網の代替えルート
- ・日用品の一部を自動車へ移動
- ・離れた所に住む親類と、連絡のとり方を決めておく
- ・発震時の行動を家族と話し合っておく。
- ・県外の家族に近況を知らせておく
- ・ヘルメットや頭にケガをしないようズキンなど用意する。
- ・県外へ避難する
- ・自治会内連絡等の再確認及び徹底
- ・ペットの用具・用品
- ・犬を飼っているため、一緒にいることと念のため避難所（一緒に避難できる）を探す
- ・近所の单身老人及び高齢者世帯の情報確認
- ・保険に入った。（地震）（家財）

ゆっくりすべりを想定した対応

問 16-3 避難する理由は何ですか。(複数回答可)

	調査数	体力に不安があり、襲来する津波や延焼火災から逃げ切れなれないと思つたため	家族の中に迅速に避難を行うことができない者がいるため	建物の耐震性等に不安があり、地震が発生したら建物や家具の下敷きになるかもしれない	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれない	地震が発生してからも、襲来する津波や延焼火災からは逃げ切れなれない	地震が発生してからも、襲来する津波や延焼火災からは逃げ切れなれない	早めに避難することにより、よりよい環境の避難所に避難したため	避難所に行けば、食べ物などがもらえるため	その他	無回答
全体	659	150	108	213	75	168	346	138	28	30	
(%)	100	22.8	16.4	32.3	11.4	25.5	52.5	20.9	4.2	4.6	
域内	358	111	66	107	23	102	190	69	17	16	
(%)	100	31	18.4	29.9	6.4	28.5	53.1	19.3	4.7	4.5	
域外	301	39	42	106	52	66	156	69	11	14	
(%)	100	13	14	35.2	17.3	21.9	51.8	22.9	3.7	4.7	

表 16-3 避難する理由（浸水域内外別）

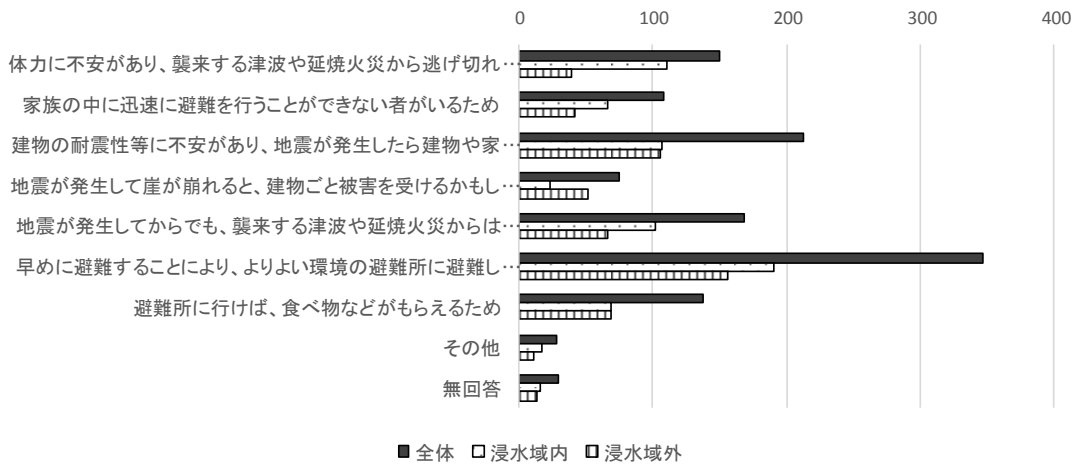


図 16-8 避難する理由（浸水域内外別）

	調査数	体力に不安があり、襲来する津波や延焼火災から逃げ切れないと思うため	家族の中に迅速に避難を行うことができない者がいるため	建物の耐震性等に不安があり、地震が発生したら建物や家具の下敷きになるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため
全体	659	150	108	213	75	168	346	138	28	30					
(%)	100.0	22.8	16.4	32.3	11.4	25.5	52.5	20.9	4.2	4.6					
域内 60歳未満	127	31	31	29	14	36	69	26	8	1					
(%)	100.0	24.4	24.4	22.8	11.0	28.3	54.3	20.5	6.3	0.8					
60歳以上	227	79	34	77	9	64	118	41	9	15					
(%)	100.0	34.8	15.0	33.9	4.0	28.2	52.0	18.1	4.0	6.6					
域外 60歳未満	103	9	16	33	16	26	58	28	6	1					
(%)	100.0	8.7	15.5	32.0	15.5	25.2	56.3	27.2	5.8	1.0					
60歳以上	198	30	26	73	36	40	98	41	5	13					
(%)	100.0	15.2	13.1	36.9	18.2	20.2	49.5	20.7	2.5	6.6					

表 16-4 避難する理由（浸水域内外別、年齢別）

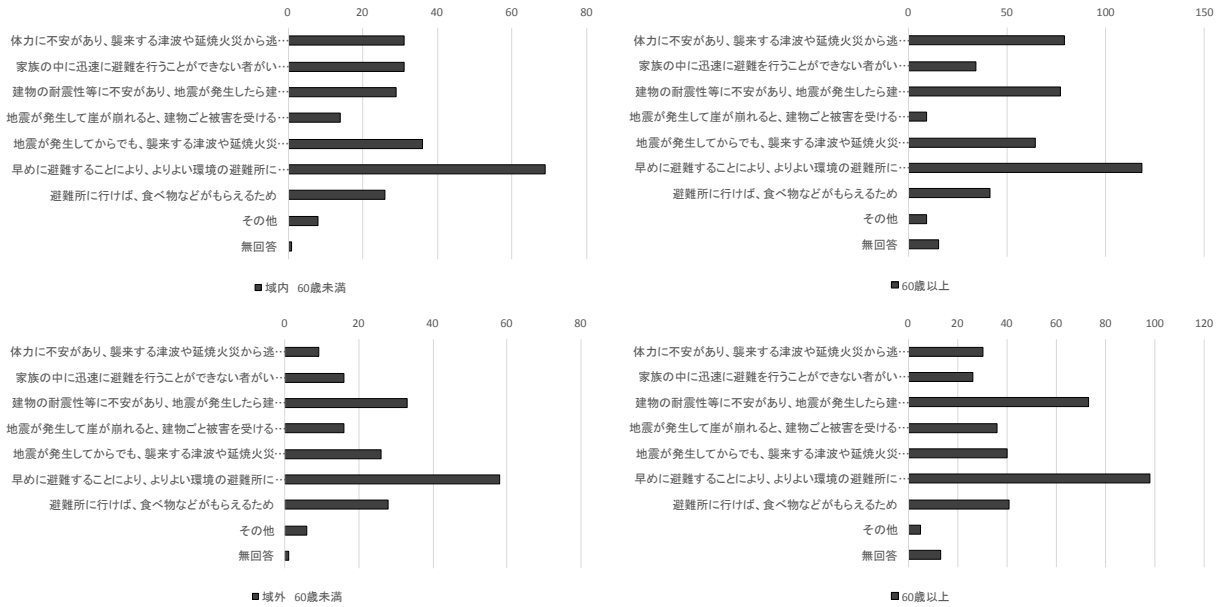


図 16-9 避難する理由（浸水域内外別、年齢別）

その他（主な意見）

<浸水域内>

- ・海と、山に、はさまれて、身動き取れなくなってしまう 大きな地震がきて、津波となれば、どうしようもない場所。
- ・津波が発生した場合、近くに避難する場所がない
- ・地震が発生してからでは、津波から逃げ切れない場所に自宅があるため。
- ・海の近くに家があるが、避難所が遠い（1 km以上遠い）
- ・地下から液状化したら避難できない
- ・町内会といっしょにヒナンする為

<浸水域外>

- ・自宅が山の中の為
- ・一人ではできないことも他の人達と助け合えばなんとかなるような気がする
- ・耐震の家に住んでいるが、学校等の方が安全だと思う。
- ・近くに実家がありそちらの方が立地的に安全なため
- ・ビジネスホテル等に一時滞在する。
- ・1人で心配しているより、他の人との情報交換ができるから。
- ・確実な情報を得られる？
- ・情報が共用できる。安心感があるかも。
- ・小学生の子がいるため。
- ・ペットがいる為

ゆっくりすべりを想定した対応

問 16-4 避難先としてどのような場所が考えられますか。(回答数は1つ)

表 16-5 避難先（浸水域内外別）

	調査数	友人・知人宅	親類宅	ホテル・旅館等宿泊施設	近くの公民館等の公的な施設	市町が指定している避難所	その他	無回答
全体	659	8	61	8	147	402	21	12
(%)	100	1.2	9.3	1.2	22.3	61	3.2	1.8
域内	358	5	43	3	63	230	10	4
(%)	100	1.4	12	0.8	17.6	64.2	2.8	1.1
域外	301	3	18	5	84	172	11	8
(%)	100	1	6	1.7	27.9	57.1	3.7	2.7

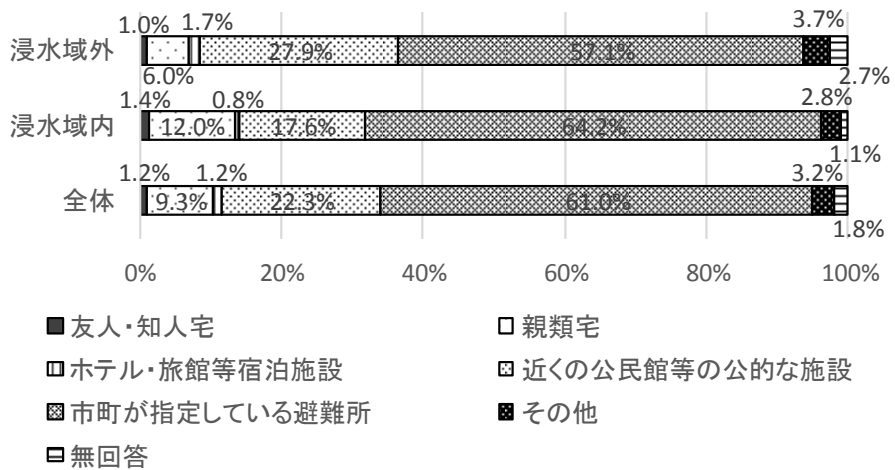


図 16-10 避難先（浸水域内外別）

その他（主な意見）

<浸水域内>

- ・ 自宅
- ・ 娘の家
- ・ 家が安全な場所にある為、そのまま。
- ・ 決めていないが、津波のこないところ
- ・ 高い所そばにはないので作ってほしい
- ・ 家の前にあるマンション 4階建
- ・ 空地
- ・ ゴルフ場の中。
- ・ 車の中がよいと思う平坦で広々している所
- ・ 学校
- ・ ひなんビル
- ・ ペットねこが3びきいる為避難所はむずかしい
- ・ その時の、状況によってかわると思う

<浸水域外>

- ・ 平家建の別の家がある
- ・ 自宅
- ・ とんりの老人ホームの駐車場
- ・ 高い建物が近くにない広い場所
- ・ 小学校
- ・ 会社
- ・ 車

ゆっくりすべりを想定した対応

問 16-5 どのくらいの期間避難しますか。(回答数は1つ)

表 16-6 避難期間（浸水域内外別）

	調査数	1日以内	2日程度まで	3日程度まで	1週間程度まで	2週間から1ヶ月程度まで	1ヶ月以上	わからない	無回答
全体	659	49	78	103	103	15	3	292	16
(%)	100.0	7.4	11.8	15.6	15.6	2.3	0.5	44.3	2.4
域内	358	22	36	58	58	9	1	166	8
(%)	100.0	6.1	10.1	16.2	16.2	2.5	0.3	46.4	2.2
域外	301	27	42	45	45	6	2	126	8
(%)	100.0	9.0	14.0	15.0	15.0	2.0	0.7	41.9	2.7

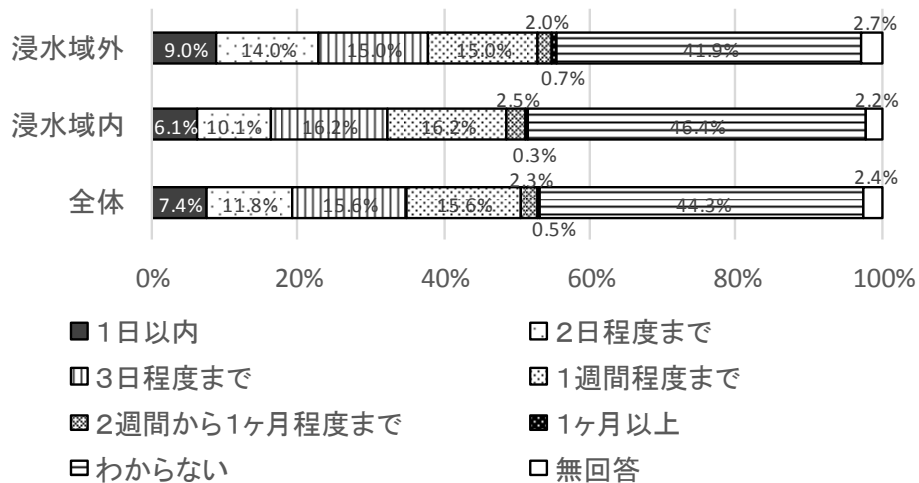


図 16-11 避難期間（浸水域内外別）

表 16-7 避難期間（浸水域内外別、年齢別）

	調査数	1日以内	2日程度まで	3日程度まで	1週間程度まで	2週間から1ヶ月程度まで	1ヶ月以上	わからない	無回答
全体	659	49	78	103	103	15	3	292	16
	100.0	7.4	11.8	15.6	15.6	2.3	0.5	44.3	2.4
域内 60歳未満	127	6	11	19	29	4	0	56	2
	100.0	4.7	8.7	15.0	22.8	3.1	0	44.1	1.6
60歳以上	227	16	24	38	29	5	1	108	6
	100.0	7.0	10.6	16.7	12.8	2.2	0.4	47.6	2.6
域外 60歳未満	103	5	10	13	18	4	1	52	0
	100.0	4.9	9.7	12.6	17.5	3.9	1.0	50.5	0
60歳以上	198	22	32	32	27	2	1	74	8
	100.0	11.1	16.2	16.2	13.6	1.0	0.5	37.4	4.0

ゆっくりすべりを想定した対応

問 16-6 問 16 の「自宅や勤め先以外の安全な場所へ避難する」ことについて、「実施したいが、おそらくできないと思う」又は、「実施する必要がないと考えている」理由は何ですか。（複数回答可）

表 16-8 避難できない・避難が必要ない理由（浸水域内外別）

	調査数	が自宅や勤務先が十分に耐震性	ら地震発生後に避難しても、津波等から逃げ切れと思うから	を通勤や通学などの日々の生活を変えられないから	から近くに安全な避難場所がない	らどこに避難したらよいか分からないから	ら環境に耐えられないと思うから	その他	無回答
全体	829	285	118	217	170	175	238	124	11
(%)	100.0	34.4	14.2	26.2	20.5	21.1	28.7	15.0	1.3
域内	383	98	75	107	104	92	110	56	7
(%)	100.0	25.6	19.6	27.9	27.2	24.0	28.7	14.6	1.8
域外	446	187	43	110	66	83	128	68	4
(%)	100.0	41.9	9.6	24.7	14.8	18.6	28.7	15.2	0.9

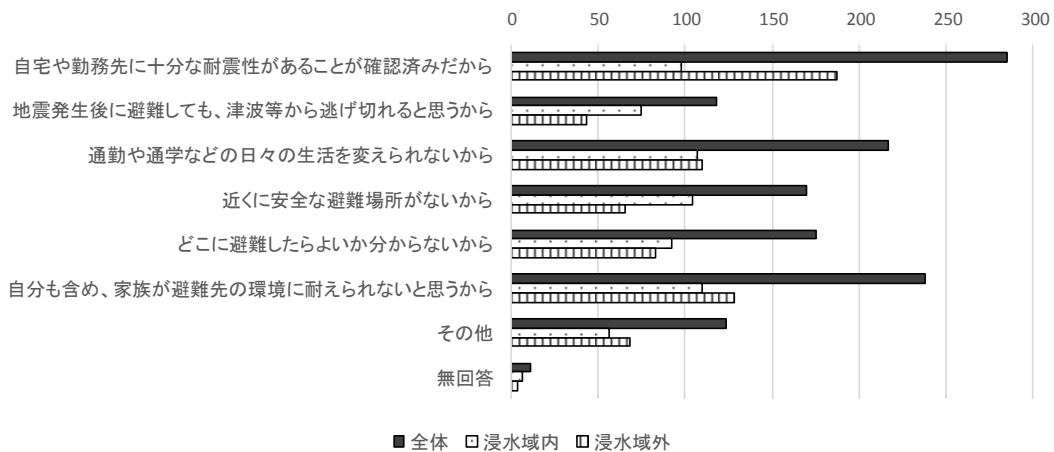


図 16-12 避難できない・避難が必要ない理由（浸水域内外別）

表 16-9 避難できない・避難が必要ない理由（浸水域内外別、年齢別）

	調査数	がな自 確耐宅 認震や 済性勤 みがあ だ先 からこ と分	げても 切れ、 津生後 と思等 うか避 から難 ら逃し	れ日通 ないの か生活 をな 変ど えの ら	所近 がく なに い安 か全 らな 避難 場	いど かこ 分に か避 ら難 なし いた らよ	ら避自 れ難分 先も いの含 と環め 思境、 うに家 か耐族 らえが	その 他	無 回 答
全 体	829	285	118	217	170	175	238	124	11
	100.0	34.4	14.2	26.2	20.5	21.1	28.7	15.0	1.3
域内 60歳未満	204	58	25	86	55	56	55	35	0
	100.0	28.4	12.3	42.2	27.0	27.5	27.0	17.2	0
60歳以上	179	40	50	21	49	36	55	21	7
	100.0	22.3	27.9	11.7	27.4	20.1	30.7	11.7	3.9
域外 60歳未満	224	110	23	80	26	36	63	39	1
	100.0	49.1	10.3	35.7	11.6	16.1	28.1	17.4	0.4
60歳以上	220	76	20	29	39	47	64	29	3
	100.0	34.5	9.1	13.2	17.7	21.4	29.1	13.2	1.4

その他（主な意見）

【実施したいが、おそらくできないと思う】

<浸水域内>

- ・地震発生日時が明確に分からないから。情報が発表された時点で避難先で食べ物ももらえるのか疑問。
- ・避難する期間が不透明だから。
- ・相対的に高まった、長期化するでは、避難生活をする訳にはいかない。
- ・発生の可能性が長期化となると先が見えないから
- ・避難して地震が起こらなかった場合を考えると、仕事を放り出して自己判断で逃げるのは難しいと思う。
- ・避難している人がいないかも開放していないかもしれないと考えてしまう。
- ・ペットがいるから
- ・介護が必要な者がいるので、すぐに逃げられないから。
- ・公務員の責務を果たすことが最優先であると考えているため。児童、生徒の安全確保ができないうちは、自分だけが避難することはできない。
- ・介護（訪問）の仕事してるので会社からの指示もあると思う。
- ・安全な場所がない
- ・その時の状況により、避難するか、しないかの判断をすると思うのでどちらとも言えない
- ・状況次第、状況により優先する内容が異なる
- ・パニック、動乱による、障害

<浸水域外>

- ・勤務先・学校が休みになるか分からないから。
- ・長期化でいつまで避難したら良いかわからない
- ・避難場所に住民が集中し、居場所が確保できないと思う。
- ・避難場所が遠い。
- ・ペットを置いて行かない。
- ・介護が必要な子供がいる為、避難出来ない
- ・災害時、勤務しなければならないため 病院職員のため
- ・家族と連絡をとって合流するのが先だと思ってるから。
- ・交通網のマヒ、地震の影響の無い所までは行けないと思う。

【実施する必要がないと考えている】

<浸水域内>

- ・すぐに発生するとは限らないなかで何日も避難を続けられないため（仕事、学校）
- ・どのくらいの期間かわからない
- ・“すぐに地震が起きる”という発表ではないと理解しているので、注意はしつつ普段の生活を送らなければならないから。
- ・犬がいると避難所に行きにくいから
- ・避難場所の安全性にも疑問を感じているから。又、避難先までの途中に於る安全も気になります。
- ・身内に酸素がないと困る→避難所にその準備がない
- ・様子を見て家族と話して避難する
- ・自宅が1番安全だと思う。

<浸水域外>

- ・発生していないうちは、自分の身は自分で守るのが基本と考えるから。ペットがいる
- ・大きな被害に合わない限り自力で生活をする考え
- ・すぐ発生するわけではないし、しばらくの間という事であるなら避難しないと思います。
- ・発生してから避難する
- ・日常生活を中断する必要はない。
- ・自宅周辺の方が安全であると思われる。避難場所は低い所にあるし、津波がくる所にあるから。
- ・長期間避難出来る安全な場所が無い
- ・自宅に居た場合はそのまま、勤務先または出先の場合はその時点で状況判断し対応は家族と連絡して決める。
- ・自宅が安全と思うから

- ・津波の浸水地域ではないから

半割れを想定した対応

問 17 このような状況の中で、あなたは何をしますか。下の表のそれぞれの項目について、該当する欄に☑をつけてください。(複数回答可)



図 17-1 半割れを想定した対応（浸水域内外別）



図 17-2 半割れを想定した対応（浸水域内外別・年齢別）

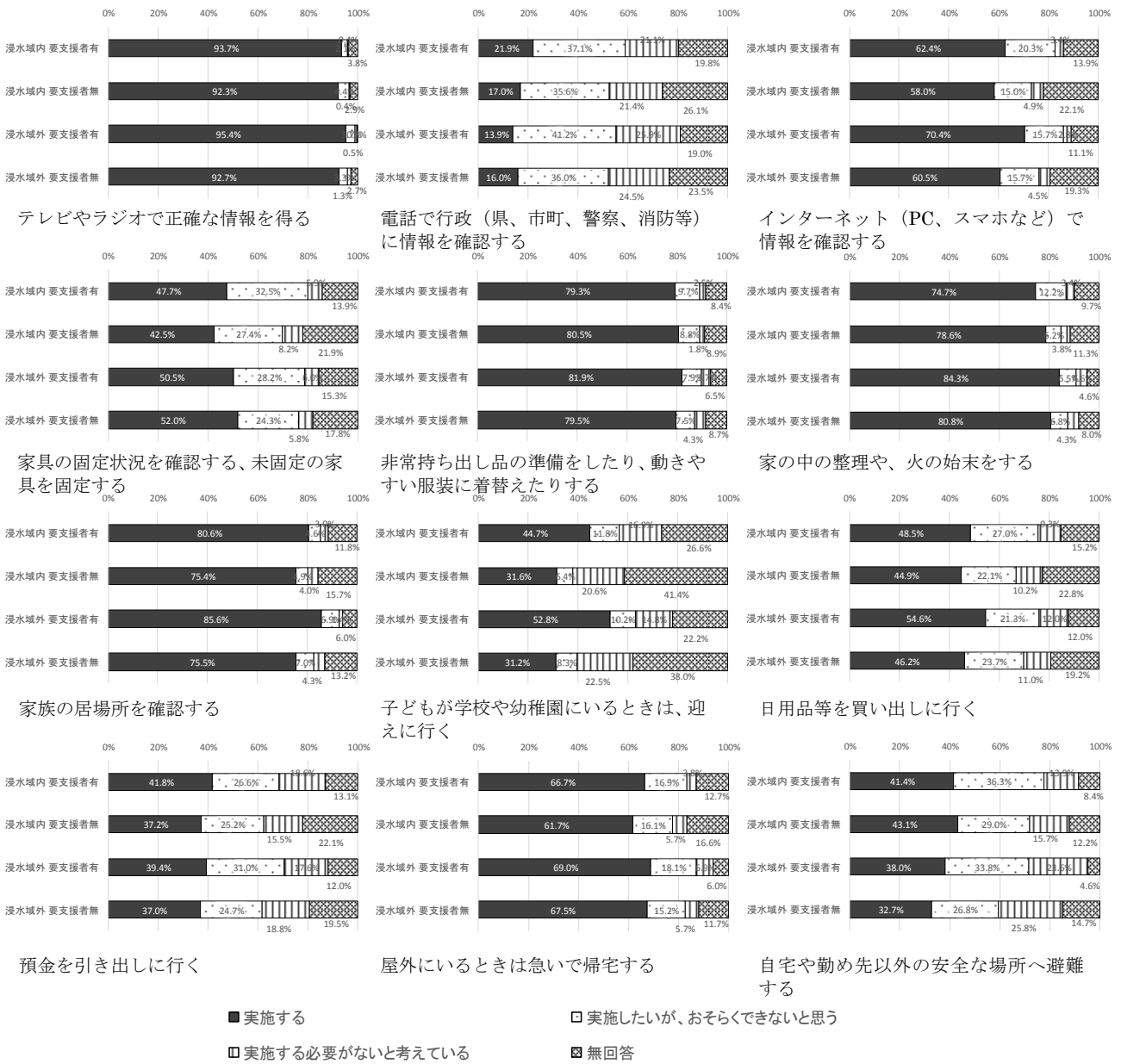


図 17-3 半割れを想定した対応（浸水域内外別・要支援者有無別）

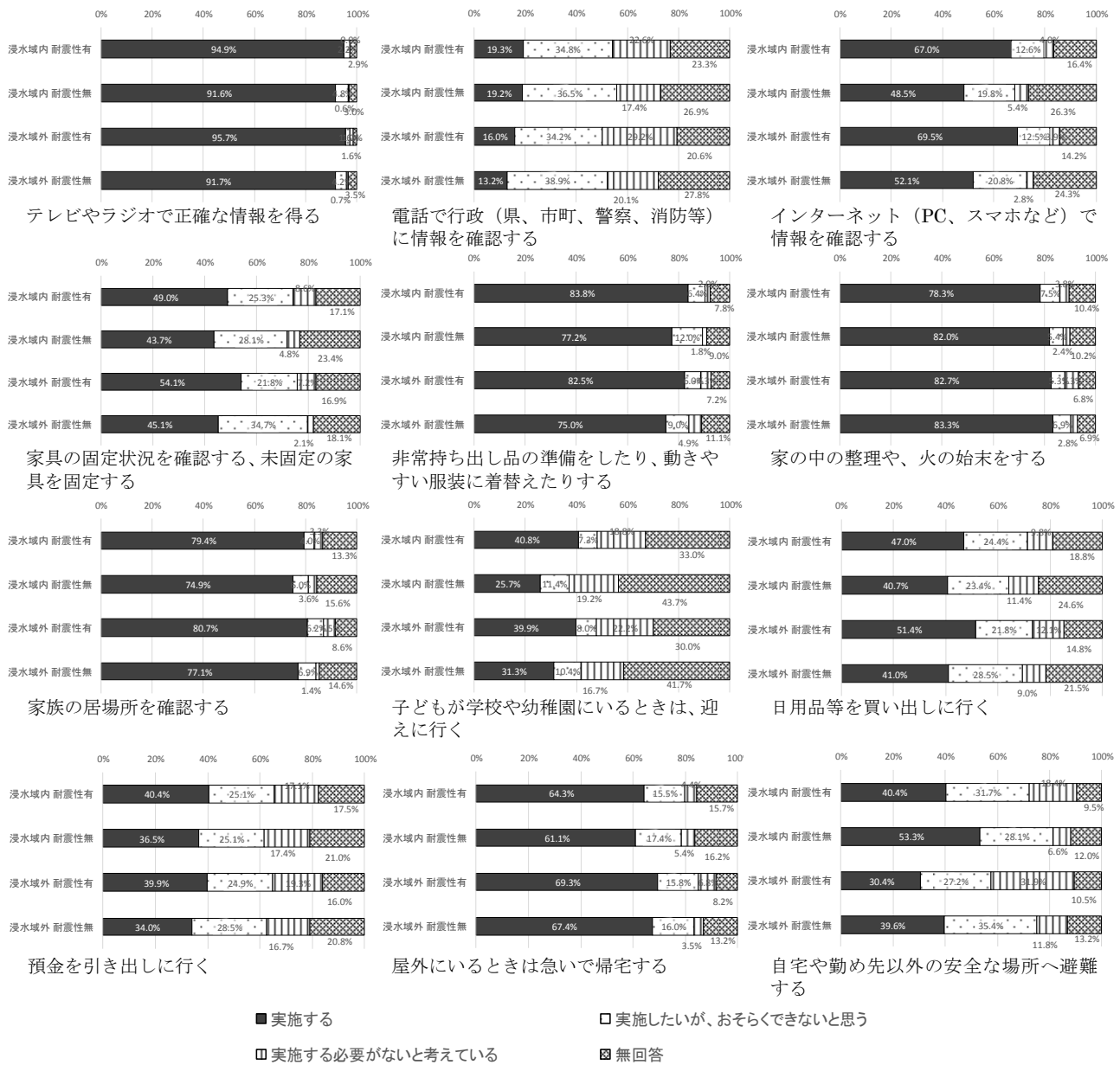
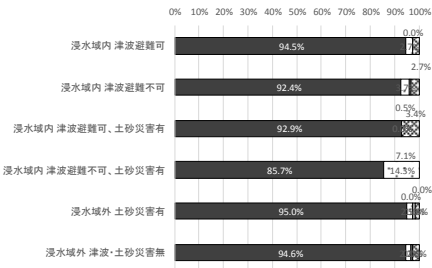
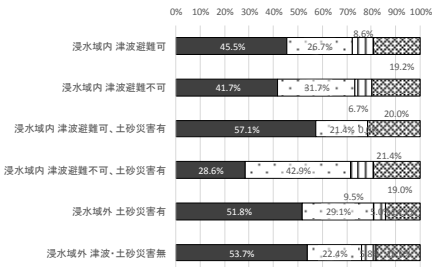


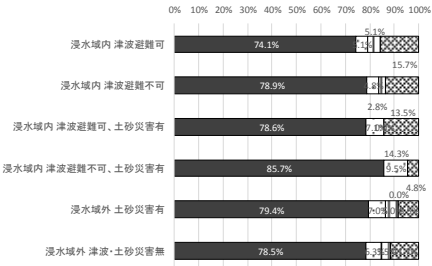
図 17-4 半割れを想定した対応（浸水域内外別・耐震性有無別）



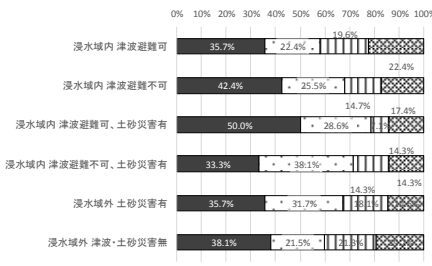
テレビやラジオで正確な情報を得る



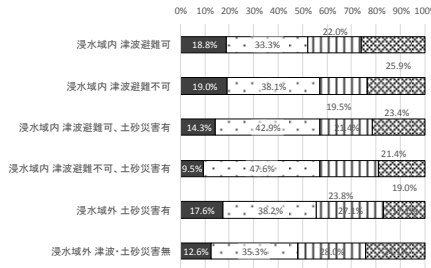
家具の固定状況を確認する、未固定の家具を固定する



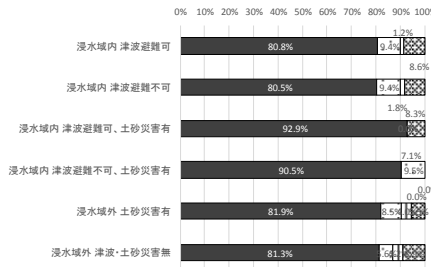
家族の居場所を確認する



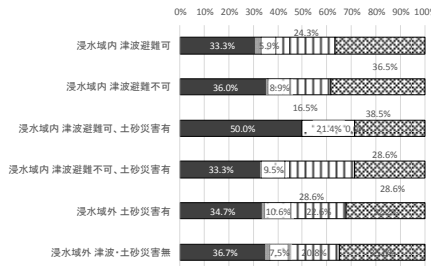
預金を引き出しに行く



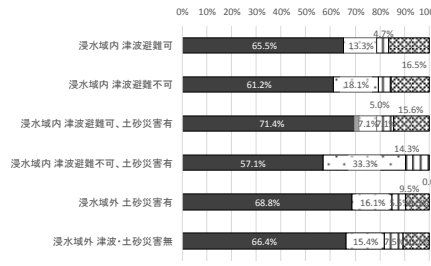
電話で行政（県、市町、警察、消防等）に情報を確認する



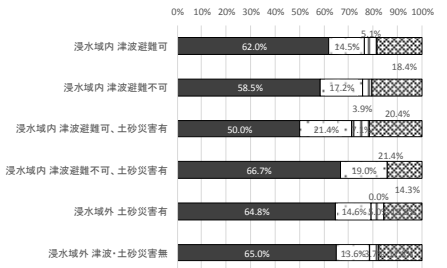
非常持ち出し品の準備をしたり、動きやすい服装に着替えたりする



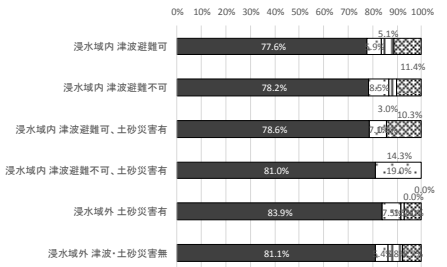
子どもが学校や幼稚園にいるときは、迎えに行く



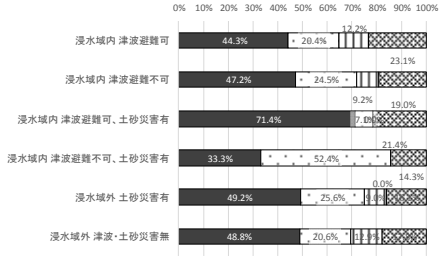
屋外にいるときは急いで帰宅する



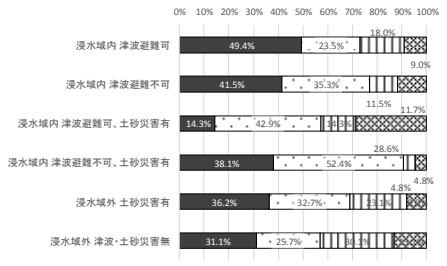
インターネット（PC、スマホなど）で情報を確認する



家の中の整理や、火の始末をする



日用品等を買出しに行く



自宅や勤め先以外の安全な場所へ避難する

- 実施する
- 実施したいが、おそらくできないと思う
- ▣ 実施する必要がないと考えている
- ⊠ 無回答

図 17-5 半割れを想定した対応（浸水域内外別・危険性認識有無別）

半割れを想定した対応

問 17-2 問 17 で示した 1～12 の項目以外に、地震発生に備えて行う方がよいと思うことはありますか。

表 17-1 その他の地震発生に備え行うべきこと（浸水域内外別）

	調査数	ある	ない	無回答
全体	1,612	144	821	647
(%)	100.0	8.9	50.9	40.1
域内	793	64	414	315
(%)	100.0	8.1	52.2	39.7
域外	819	80	407	332
(%)	100.0	9.8	49.7	40.5

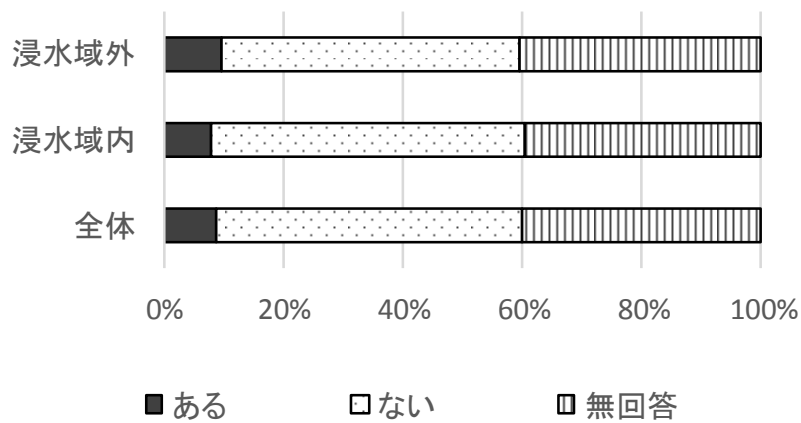


図 17-6 その他の地震発生に備え行うべきこと（浸水域内外別）

表 17-2 その他の地震発生に備え行うべきこと（浸水域内外別、年齢別）

	調査数	ある	ない	無回答
全 体	1,612	144	821	647
	100.0	8.9	50.9	40.1
域内 60歳未満	337	33	184	120
	100.0	9.8	54.6	35.6
60歳以上	451	30	230	191
	100.0	6.7	51.0	42.4
域外 60歳未満	331	35	163	133
	100.0	10.6	49.2	40.2
60歳以上	485	45	241	199
	100.0	9.3	49.7	41.0

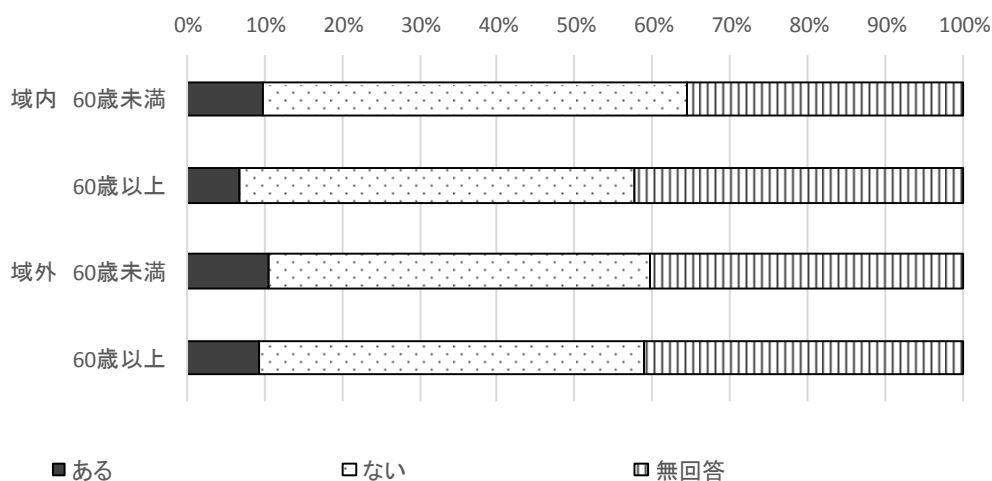


図 17-7 その他の地震発生に備え行うべきこと（浸水域内外別、年齢別）

具体的に備え行うべきこと（主な回答）

<浸水域内>

- ・避難場所を家族で相談しておくこと。非常持出を確認する。
- ・水と食料品の備蓄、電池式の照明やラジオ等の準備
- ・非常持ち出し品の中に少しの現金を入れておくと思います
- ・車にガソリン給油しておく
- ・家族の連絡手段、避難場所を話し合っておきたい。
- ・津波がきても安全な場所の確保
- ・移動手段の確保
- ・子供たちに、地震発生した場合、どうするべきかの話をする。
- ・親類とも連絡をとっておく。
- ・危険が長期化する場合の移住先の具体的な検討、別居親族との同居などの検討
- ・近所の人達と助け合って準備する。
- ・地震が起きる危険性が高まった段階でも、学校は休校にしてほしい。
- ・ペット猫がいるので餌、ペットを入れるケースを用意 ペットを置く場所確認する。
- ・家具固定

<浸水域外>

- ・水、食べ物、発電機
- ・バッテリーの確保、ケイタイ、トイレ、小銭（こうか）
- ・ある程度の現金の保有、小銭の保有→自販機及公衆電話用
- ・食品や水の用意、冬ならば暖をとれる対策
- ・車にガソリンを入れ満タンにする。常にお風呂に水をためておく
- ・日用品の一部を自動車へ移動
- ・地震が起きた際に、家族・友人等と連絡をどのようにとるか確認しておく。
- ・携帯電話、充電器への充電。
- ・町内会の結束と連携
- ・近所の人達を大事にして、密に連絡する。
- ・ペットの用具・用品
- ・保険に入っておく。
- ・就寝場所を、かえる。
- ・自宅に、押しつぶされない場所を一ヶ所作っておく。鉄骨等で作る。
- ・節水や、節約など節度ある行動

半割れを想定した対応

問 17-3 避難する理由は何ですか。(複数回答可)

表 17-3 避難する理由

	調査数	体力に不安があり、襲来する津波や延焼火災から逃げ切れがないと思うため	家族の中に迅速に避難を行うことができない者がいるため	建物の耐震性等に不安があり、地震が発生したら建物や家具等が壊れるか、地震が発生したため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生しては逃げ切れず、襲来する津波や延焼火災から逃げ切れがないため	地震が発生しては逃げ切れず、襲来する津波や延焼火災から逃げ切れがないため	避難所に避難することにより、よりよい環境の避難所に行けば、食べ物などがもらえるため	その他	無回答
全体	615	150	116	197	72	170	317	155	28	16
(%)	100.0	24.4	18.9	32.0	11.7	27.6	51.5	25.2	4.6	2.6
域内	337	114	68	98	29	105	169	75	20	8
(%)	100.0	33.8	20.2	29.1	8.6	31.2	50.1	22.3	5.9	2.4
域外	278	36	48	99	43	65	148	80	8	8
(%)	100.0	12.9	17.3	35.6	15.5	23.4	53.2	28.8	2.9	2.9

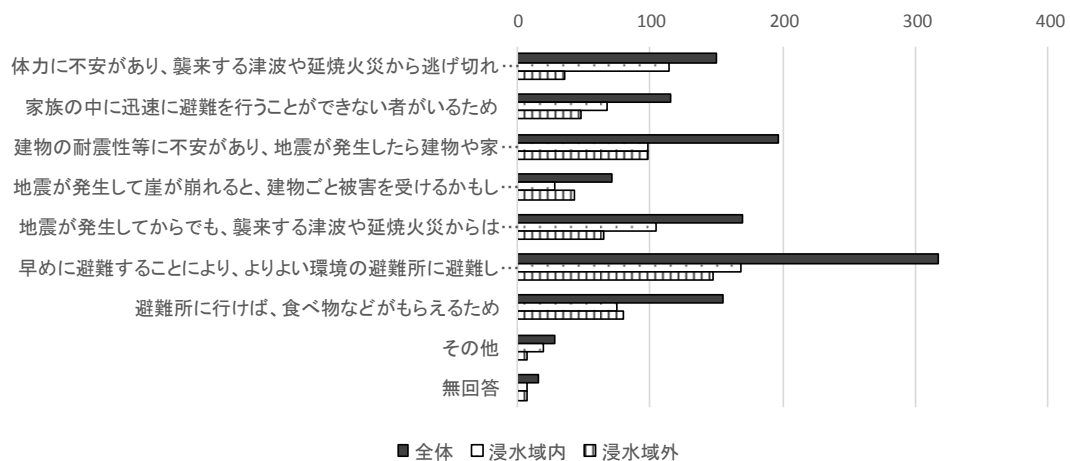


図 17-8 避難する理由

表 17-4 避難する理由（浸水域内外別、年齢別）

	調査数	体力に不安があり、襲来する津波や延焼火災から逃げ切れないと思うため	家族の中に迅速に避難を行うことができない者がいるため	建物の耐震性等に不安があり、地震が発生したら建物の耐震性等に不安があるか、地震が発生したため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため	地震が発生して崖が崩れると、建物ごと被害を受けるかもしれないため
全体	615	150	116	197	72	170	317	155	28	16		
	100.0	24.4	18.9	32.0	11.7	27.6	51.5	25.2	4.6	2.6		
域内 60歳未満	118	26	28	27	15	32	62	25	11	-		
	100.0	22.0	23.7	22.9	12.7	27.1	52.5	21.2	9.3	-		
60歳以上	216	88	39	70	14	71	105	49	9	8		
	100.0	40.7	18.1	32.4	6.5	32.9	48.6	22.7	4.2	3.7		
域外 60歳未満	95	6	23	31	10	34	52	30	3	1		
	100.0	6.3	24.2	32.6	10.5	35.8	54.7	31.6	3.2	1.1		
60歳以上	183	30	25	68	33	31	96	50	5	7		
	100.0	16.4	13.7	37.2	18.0	16.9	52.5	27.3	2.7	3.8		

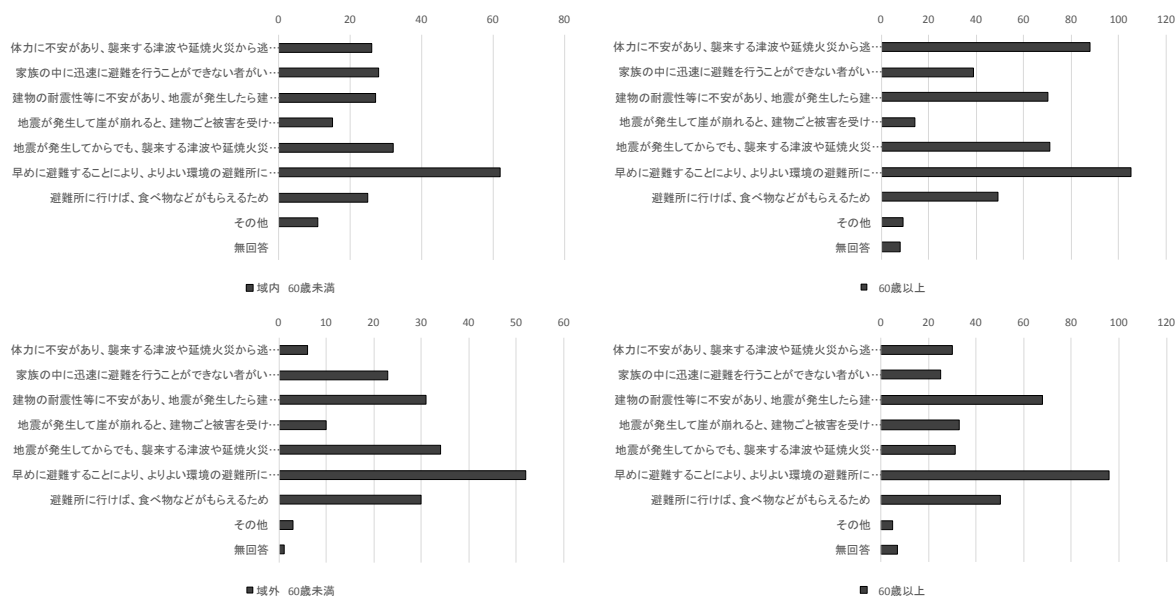


図 17-9 避難する理由（浸水域内外別、年齢別）

その他（主な意見）

<浸水域内>

- ・津波が発生した場合、近くに避難する場所がない
- ・自宅が津波浸水地域だから
- ・海から近すぎて、体力があっても逃げ切れない
- ・町内会の人とにげる為
- ・近所の人という方が安心。
- ・1週間程度なら安全な場所へ行けるため
- ・家族の安全を考えて

<浸水域外>

- ・トイレ
- ・車の中がよいと思う
- ・小学生がいるため
- ・大勢の人の中にいた方が、不安が軽減されると思うから
- ・安心するため

半割れを想定した対応

問 17-4 避難先としてどのような場所が考えられますか。(回答数は1つ)

表 17-5 避難先

	調査数	友人・知人宅	親類宅	ホテル・旅館等宿泊施設	近くの公民館等の公的な施設	市町が指定している避難所	その他	無回答
全体	615	5	67	7	134	372	19	11
(%)	100.0	0.8	10.9	1.1	21.8	60.5	3.1	1.8
域内	337	4	52	3	47	213	10	8
(%)	100.0	1.2	15.4	0.9	13.9	63.2	3.0	2.4
域外	278	1	15	4	87	159	9	3
(%)	100.0	0.4	5.4	1.4	31.3	57.2	3.2	1.1

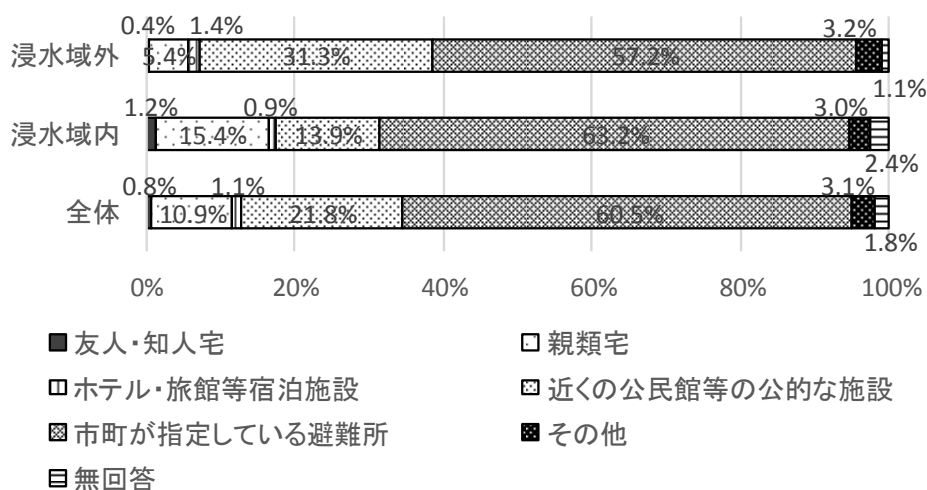


図 17-10 避難先

その他（主な意見）

<浸水域内>

- ・親の実家
- ・自宅
- ・近くのマンション
- ・空地
- ・耐震性のある建物
- ・津波がくれば避難する所が無いから
- ・特に決めていない
- ・特に考えてはいない

<浸水域外>

- ・平家建の別の家がある
- ・平坦で広々している所がよい。

半割れを想定した対応

問 17-5 どのくらいの期間避難しますか。(回答数は1つ)

表 17-6 避難期間（浸水域内外別）

	調査数	1日以内	2日程度まで	3日程度まで	1週間程度まで	2週間から1ヶ月程度まで	1ヶ月以上	わからない	無回答
全体	615	46	64	97	127	16	5	249	11
(%)	100.0	7.5	10.4	15.8	20.7	2.6	0.8	40.5	1.8
域内	337	24	32	51	75	10	3	135	7
(%)	100.0	7.1	9.5	15.1	22.3	3.0	0.9	40.1	2.1
域外	278	22	32	46	52	6	2	114	4
(%)	100.0	7.9	11.5	16.5	18.7	2.2	0.7	41.0	1.4

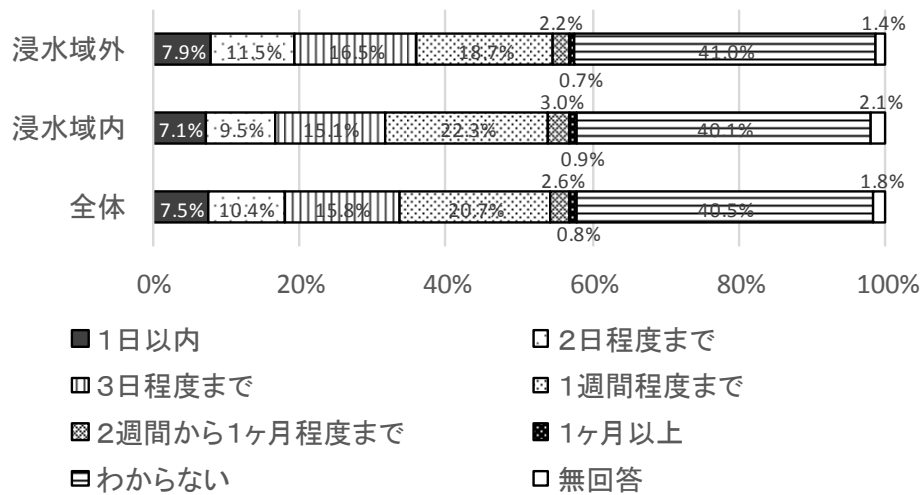


図 17-11 避難期間（浸水域内外別）

表 17-7 避難期間（浸水域内外別、年齢別）

	調査数	1日以内	2日程度まで	3日程度まで	1週間程度まで	2週間から1ヶ月程度まで	1ヶ月以上	わからない	無回答
全体	615	46	64	97	127	16	5	249	11
	100.0	7.5	10.4	15.8	20.7	2.6	0.8	40.5	1.8
域内 60歳未満	118	6	10	17	30	7	-	48	-
	100.0	5.1	8.5	14.4	25.4	5.9	-	40.7	-
60歳以上	216	18	21	33	45	3	3	86	7
	100.0	8.3	9.7	15.3	20.8	1.4	1.4	39.8	3.2
域外 60歳未満	95	3	6	9	26	3	-	48	-
	100.0	3.2	6.3	9.5	27.4	3.2	-	50.5	-
60歳以上	183	19	26	37	26	3	2	66	4
	100.0	10.4	14.2	20.2	14.2	1.6	1.1	36.1	2.2

半割れを想定した対応

問 17-6 問 17 の「自宅や勤め先以外の安全な場所へ避難する」ことについて、「実施したいが、おそらくできないと思う」又は、「実施する必要がないと考えている」理由は何ですか。（複数回答可）

表 17-8 避難できない・避難が必要ない理由

	調査数	が自宅や勤務先が十分に耐震性	ら地震発生後に避難しても、津波等から逃げ切れると思うから	を通勤や通学などの日々の生活	か近くに安全な避難場所がない	らどこに避難したらよいか分からないから	ら環境に耐えられないと思うから	その他	無回答
全体	806	298	125	198	162	172	221	110	14
(%)	100.0	37.0	15.5	24.6	20.1	21.3	27.4	13.6	1.7
域内	366	108	62	101	94	101	106	46	7
(%)	100.0	29.5	16.9	27.6	25.7	27.6	29.0	12.6	1.9
域外	440	190	63	97	68	71	115	64	7
(%)	100.0	43.2	14.3	22.0	15.5	16.1	26.1	14.5	1.6

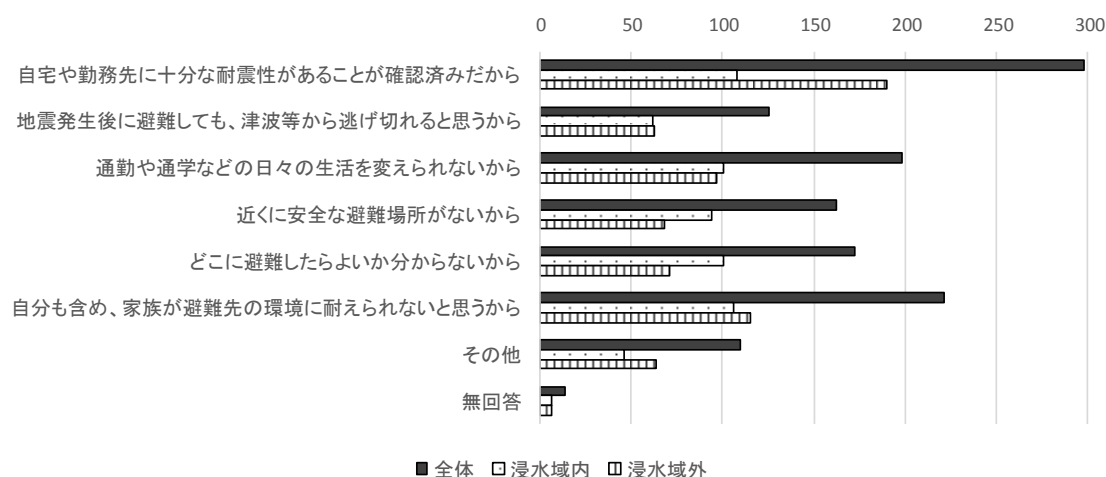


図 17-12 避難できない・避難が必要ない理由

表 17-9 避難できない・避難が必要ない理由（浸水域内外別、年齢別）

	調査数	がな自 確認耐 済震や み性が だ先 らこ十 と分	げて地 切も震 れ津生 、波後 、発 津等 に 思 う か 難 し	れ日通 な々の いのや か生活 から学 をな 変ど えの ら	所近 がく ない 安全 な 避 難 場	いど かこ 分に か避 ら難 なし いた らよ	ら避自 れ難分 ない先 の含 と環め 境、 思うに うに家 か耐族 えが	そ の 他	無 回 答
全 体	806	298	125	198	162	172	221	110	14
	100.0	37.0	15.5	24.6	20.1	21.3	27.4	13.6	1.7
域内 60歳未満	205	69	27	82	49	62	54	24	-
	100.0	33.7	13.2	40.0	23.9	30.2	26.3	11.7	-
60歳以上	161	39	35	19	45	39	52	22	7
	100.0	24.2	21.7	11.8	28.0	24.2	32.3	13.7	4.3
域外 60歳未満	226	108	34	67	23	30	52	40	4
	100.0	47.8	15.0	29.6	10.2	13.3	23.0	17.7	1.8
60歳以上	212	81	29	29	44	41	62	23	3
	100.0	38.2	13.7	13.7	20.8	19.3	29.2	10.8	1.4

その他（主な意見）

【実施したいが、おそらくできないと思う】

<浸水域内>

- ・長期化に対応できる避難所はない。
- ・長期に渡るかもしれない状況ではいつ、どう動いたら良いかの判断が、出来ない。
- ・仕事
- ・何年も避難してられない
- ・安全な避難場所はあるが、地域の人全部は収容しきれないから。
- ・ペットがいるから
- ・介護が必要な老人と同居しているため。
- ・体の不自由な人がいる
- ・公務員としての責務を果たすことが最優先であると考えているため。
- ・その時になってみないとわかりません。自営業でお客様を逃がす事（守ること）が一番大事になっていると思う。
- ・パニック、動乱による障害
- ・総合的に考えると自宅が安全かなと思う
- ・行政の指示に従う。

<浸水域外>

- ・職場にいなくてはならない為家族のことをしてあげられない。
- ・ペットがいるから
- ・避難先に住民が集中し、自分の居場所が確保できない可能性がある。

- ・介護が必要な子供がいる為、避難出来ない
- ・行政職として対応に追われると思うため
- ・仕事内容が医療なので、地震や津波が発生し、病院に人が多くきたり、等なにかあれば家にスムーズに帰ることはむずかしいかもしれない。
- ・外出先の状況による。その場でなければ判断出来ない
- ・仕事に出ている家族や、自宅からはなれた場所に住んでいる家族が自分の居場所を探すところから。
- ・家族をむかえに行き、合流した方が早いから
- ・揺れが小さい
- ・エリアメール等で避難勧告等が出ても仕事はいつも休みにならないから

【実施する必要がないと考えている】

<浸水域内>

- ・いつ地震が発生するか、どの位の期間避難する必要があるかわからない為。おそらく普段通りの生活をしたいと思います。
- ・避難先が徒歩3分と近いから協力に行ったり、水、食料等は必要なときにもらいに行く。避難先は人が多すぎるだろうから
- ・自宅敷地標高にゆとりがある。避難タワーが近くにある。
- ・実際に起こらないと動かず家にいると思う。
- ・防潮堤（13m）があるから
- ・この状況なら避難の必要がないと判断しました
- ・問17の想定状況の情報が詳しいので防災対策は必要だと思うが、避難は必要ではないと思った。
- ・大きな被害はない
- ・その程度なら自宅で大丈夫そうだから
- ・どうしようもなくなったら、引越すと思う

<浸水域外>

- ・学校・社会全体が休業なら避難できると思う
- ・日常生活を中断する必要はない。
- ・ペットと避難できる場所がない
- ・ペットを自宅に置いたまま行けない。
- ・様子を見る。
- ・自宅が安全と思うから
- ・台地に住んでいるため、津波の心配がないため
- ・震度4程度という想定なので。
- ・緊急性を感じない。

■ 南海トラフ地震に関する防災対応等について

問 18 南海トラフ地震に関する防災対応等について、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

自由回答（主な意見）

※記入内容を原文のまま記載しています。

1. 行政の対応に対する不満、行政の施策に対する要望

① 県民や企業への啓発の推進

- ・巨大災害が発生した時に、行政がどのような行動支援の準備がされているのか、現在の状況について説明がないように思う。個人の備えを県民に広めるとともに、行政の防災の備えの向上が見て分かるようにしたほうが良いと感じる。
- ・地震の危険度が高くなった場合、企業に対して通勤中止を求める等の対応があると良い。海の近くや川の近くの会社では、地震で助かっても津波で助からない。自己判断で逃げられない場合もあるので、強い対応が欲しいと思う。
- ・備蓄の重要性を行政側からもっと発信してはどうでしょうか。1～3日ぐらいの食料や水の用意さえあれば大きな混乱なくとりあえずの期間はすごせるはずです。（ケガをしなければですが）安易に避なん所への来所もある意味危険だと思います。
- ・昨年変更になった「南海トラフ地震に関連する情報」について変更になったことを分からない、知らない人が多いのでもう少し県民に周知すべきだと思う。

② 津波一時避難施設の確保、避難環境の整備

- ・自宅は海岸に近く津波がとても心配です。そして自宅からは見渡すかぎり高層の建物もなく、逃げ場がありません。昔からの土地で年寄りが多く、遠い所にすばやく歩いて避難することは困難だと思います。安全を求め転居するお宅も多いので空地が目立っています。そのような場所を利用できるものならば、避難タワーをもう少し増やしてほしいと思います。（ちなみに家の近くには、タワーはありません）
- ・避難が必要な状況になった場合、避難所内の状況（収容人数、確保されている物資の量等）を広報等で正確に伝えて欲しい。子供がいる家庭の場合はオムツやミルク等消費品が一般とは異なる為、用意する物が変わってくるので事前に備えられるよう避難所内の情報の正確さは命にかかわってくる（介護の必要な高齢者も同様）いざという時の備えが保育園や学校にしっかりゆき渡るよう今のうちからの資金援助も市の方で検討してもらいたい
- ・県及び市町村はハード面（津波避難タワー等）を積極的に作ってほしい。
- ・避難所の新設・設備などの充実を行なって欲しい。災害に対しての環境の改善・整備をお願いしたいと思います。災害が起きても、安心して過越せるようにトイレの設備など、最低限の設備の設置などの対処などをお願いしたいです。学校などでの定期的な防災訓練などの実施備蓄の確保 ローリングストックの充実
- ・避難所にペット可のスペースを用意してほしい。切に願います。よろしくお願いま

す。

③ 火災対策（感震ブレーカー設置に対する助成など）

- ・各自治体からの補助金助成を利用して、感震ブレーカーの設置工事を行っておき、トラフ地震の際に、自宅を電気火災から守ることも重要な対策といえる。また、防災グッズや防災用簡易食品を常時備えて置くことも大切である。

④ 津波に対する堤防強化ほか対策の推進

- ・防災タワーなどを増やしたり川が氾濫しない用に堤防を作ったりしてほしい。

⑤ 実効性のある避難訓練、防災訓練の実施

- ・地域の防災等の放送が屋外でも聞こえないことの方が多いので、実際に津波警報が出ても屋内だと全く対応できないと思う。防災訓練も毎回同じ曜日、同じ時間に行っても万年化してただの井戸端会議になっている。参加人数も少ないので、子どもがいる世帯はもっと学校で呼びかけたり、時間も変えて行う等の対策が必要だと思う。

⑥ ライフラインの早期復旧に対する対策

- ・ライフラインの早い回復は、被災者の生命力を蘇らせ、復興の大きな鍵となることでしょう。ライフラインの一刻も早い回復の手だてを研究していただきたい。
- ・困る事は電気、水道、等ライフラインが止まってしまうと、家で過ごせず困ってしまう。心配なのはトイレ。・家がつぶれたら、どうするか？

⑦ 要配慮者対策の推進

- ・私のような高令な者は本当に近くに安心出来る所がないと瞬時の行動は無理だと常に思っている
- ・毎年防災訓練に参加していますが、年々高齢化が進んでいると思います。高齢者が安心、安全に暮らせるような避難施設もあれば良いです。高齢者はテレビ、ラジオでしか情報を得る事ができないので、インターネットでの呼びかけは意味がないですね。
- ・避難所の環境がどのようなものか分からないので、情報が必要である。特に、高齢者、子ども、女性が苦痛を感じる事が多くなるのではと不安があるので。

⑧ 緊急避難後の救助について

- ・津波避難タワーに避難してから、津波が来たとして、その後どうしたら良いのでしょうか。どこに避難したらいいのか分からない。
- ・私は津波浸水地域に住んでおります。近くに避難ビルが数年前に完成致しました。果たして、津波到達までに逃げきれぬのかどうか疑問に思っています。また避難できたとしてもその後の避難生活はどうなるのか具体的な様子がわかりません。地区によっては防災リーダーが中心となりかなり細かな点まで話し合われているようです。地区により意識の格差が大きく、人口減少にも拍車を掛けている気がします。

⑨ 地震の揺れ対策の推進

- ・津波避難タワーはあっても地震避難施設はあるのでしょうか。認知できるように行政

は知らせて欲しいと思います。

- ・家屋の補強を考えている家庭に対して、補助金や、補強手段を提示すべきではないか。

⑩ 正確な情報の着実かつ迅速な発信

- ・確実な情報を迅速に発信して欲しいと思います。
- ・空振りでもよいので、少しの異常も発表してほしい。
- ・南海トラフ地震で、いきなり津波が起きたら海浴いの人々はほぼ全員亡くなる可能性が高いと思う。前もって予測できたとしても行政で仕事をしてはいけない学校は休校など強制しないとほとんどの人が普段と変わらない生活を送ると思います。
- ・大混乱、パニックの中、如何に冷静に行動出来るか、不安ですが現状をしっかりと把握出来る情報を提供してもらえるのか？どんな方法で伝えてもらえるのか？スマホ、等現代の情報ツールを持たない高齢者への情報提供は？何はともあれ、自分で出来る備えは、日頃から心がけています。・水・食品・トイレ・懐中電灯・電池・ラジオ等
- ・正確な情報があれば、早めに知りたい。津波の情報を正確に知りたい。県として、もっと情報を早く伝える仕組みを作って欲しい。
- ・インターネットで誤った情報が広まらないように情報の監視・規制をして欲しい。
- ・地震の予兆情報は、速やかに発信して頂きたい。

⑪ 迅速な救助体制の確立

- ・津波のおそれがあると情報が入っても、自宅以外に避難する場所がない。近所に避難タワーがあっても屋根はなく、1時間以上タワーにいることはできないと思う。学校に避難しようと思っても、早朝や夜間は開いていないと思う為、テレビや緊急メールなどで「〇〇へ避難して下さい。」と、地域ごとに具体的に避難できる場所を教えてくださいと良いと思う。よろしくお願い致します。

⑫ 既存の避難場所等の再点検

- ・自宅や勤務先以外の安全な場所を捜すことになるがなかなか思い当たらない。市から指定された避難場所と思うが自宅から遠すぎる上、避難対象区域の住民の数に比べてスペースが狭すぎる。小学校が避難場所に指定されているが、体育館等は開放できても発災前では教室等は利用できないだろうからどのように対応するか問題。
- ・実際、地震が起き避難所に行っても、人であふれかえってるのが想像できます。もっと細かい地区分けにして考えないと避難所を利用する事を積極的には考えにくいでしょう。

⑬ 防災資機材等の整備、購入に関する助成

- ・避難地、避難所の増設、避難地、避難所への日常生活品、医薬品等の備蓄、投光器の備え—避難する時間帯が夜間で、かつ停電した場合、真暗で危険なので。避難地、避難所）での伝達手段の整備…放送施設器具類（防災訓練時、小さなハンドマイクでは多勢の集団には伝わりきれないことを実感しているから。）
- ・避難場所が少ないので、多分自宅の車や車庫で避難する事になると思うが、食事や水をわけてもらえるのか不安です。

⑭ 避難生活時における心のケア対策

- ・避難生活は非日常なのでストレスが滞らないように行政の支援（体操教室、娯楽対応）

⑮ 避難経路の確保対策

- ・電柱の地中化

・考えるべきことはたくさんあると思いますが、基本は自分の身は自分で守ることで、
とはいえ、伊豆には危険な道路がたくさんあり、車で走っていても、今、この場で地震に遭遇したと思うことがあります。道路が寸断されたら…と思うことも。個人では限界がありますので、安全な道、場所の整備を県又は国で検討していただけたらと思います。

⑯ 行政機関等同士の連携強化

- ・震災後の、公的機関主に自衛隊との連絡強化、及び救難体制の確立と確認。

⑰ ペット対策の実施

- ・ペット（犬・猫）と避難しようと思うが、どの様にしたらよいかの情報等があったらよいと思う。
- ・今まで静岡県は地震が発生しやすいと言われており、又今年県外で様々な災害がありました。各自の災害に対する準備や発生時の行動はしっかり行う必要があると思います。しかし、県の方でも今までの災害等から様々な状況を把握して、迅速に対応できるようにして下さい。また、犬も家族の一員です。犬猫（動物）に対する災害対策をして下さい。避難所でも動物と一緒に避難できる所を増やして、その場所を把握できるように皆へ広めて下さい。

⑱ 液状化対策の推進

- ・海岸に近く地震による津波及び液状化による地盤沈下が心配です 尚、建物、家具の固定は心配ありません

⑲ 避難標識、看板等の充実

- ・海岸近くの公園→広野公園、焼津の公園（うみえーる、アクアス焼津）、清水三保によく行くのですが、遊んでいる時にもし、地震が有り、津波が来たらどうしよう…と考えます。周りを見ても高い建物が、無くどこに避難したらいいか不安になります。特に三保は、観光の方など、たくさんの方がいるので、津波が来た時にどこに避難するか、などが分かる看板、標しきが有ると、パニックにならずに済むと思います。また普段から、利用するにあたって、ここに避難するという、事が分かると安心して利用でき、行きやすくなると思います。

⑳ 市町村の防災力の向上（人材育成）

- ・静岡県の危機管理の質のレベルと各市町村（特に磐田市）のレベルとの差が（磐田市のレベルが低い）磐田市は設備的には整っていると思うが、現実それを最大限活用で

きる人財（材）がない。出来れば県の管理を磐田市に指導してもらいたい。

2. 自助・共助について

① 県民一人ひとりの防災意識向上、自助の取組みについて

- ・全てにおいて、その時の地震の程度によって思考力は、変化すると思います。ただし色々と考えても、瞬時に日頃から行動出来る様に意識を持つ事が大事ではないでしょうか？
- ・いつやってくるか、不安があるが、「心を安定させ」行動すること。命の大切さを心に、家族と連絡をしあうこと。自分は、地震がくる地域に住んでいることを互えず自覚すること・行政の皆様の支援活動を期待している。
- ・自宅近くの安全な避難場所を確認しておきたい。（自治会を通じて回覧板などで知らせたい。）
- ・家の中には背の高い家具もおかないようにしています。年寄りには足が不自由のためしせつにはいりました。自分でできる事は自分で用意をしておきたいです（水、トイレなど）とにかく私たちは東日本地震を見ていたのでとにかく高い所へにげるこれだけは頭にいれておこうと思います。南海トラフ地震は必ずいつかくると思い生活していきたいと思います。
- ・日頃から準備できる物は用意してありますが一番大事な事は季節、時間、天候などにより変わってくると思います。イメージをふくらませる事が大事かと思えます長期停電（台風24号）でスマホの大切さが判りました。情報をできるだけ知り、冷静に対処する事だと思います。
- ・人それぞれに状況、役割がちがう中、それぞれにできること、やらなければいけないことを日頃より意識しておく必要がある。・長期にわたる避難の可能性と、日用品の品薄、買い占め、パニックなどが想定される。それに対する対応をきちんとしておく必要がある。（これは想定外ではない）
- ・日頃常に感心を持って行動しているのが重要。
- ・建物は大丈夫だったとしても、道路や橋がどうなるかは、考えてもわからず、家族がしばらく、助けなく暮していけるだけの避難食+水を用意することを、心掛けていますが、消費期限にけっこう追われてしまいます。いつ発生するのかかわからず、それだけに怖さを感じます。
- ・日用品の買い出しや、預金の引出し等の無いように備蓄に心掛けたいと思います。
- ・このアンケートで南海トラフ地震がおきたら、2、3日中に日ごろの備えに加え、1～2週間の備えを補充する算段をととのえなければならぬと気づけました。幼児がいるのでもち出し品の点検をこまめに行うこと、ふだんから使うバックに少し多めのオムツやおやつ、水分などもち歩くようにしようと思いました。
- ・自分自身で安全は守りたい
- ・1. 使っていない物の整理→物を少なくしていきたい と家具類の整理 2. いつ起きるか分からないので、起きた時の行動（場所等）を明確にしておきたい。

② 自主防災に関する取組みの実施

- ・大規模災害が発生し、被害が発生した場合、国・県・市の救援には、日数が必要になることが考えられる。そこで、町内会を中心とした住民同士の助け合いが重要と考えます。しかし、町内会も高齢化し、実際のところ町内会としての活動がどこまでできるか疑問を感じる。また町内会に入らない住民も少なくない。防災対策として、町内会等の自治会活動が防災対策として重要であることをマスコミを活用し、周知徹底する必要があると感じます。
- ・災害時に大切な事は助け合いと声かけ。日頃から行政からも呼びかけて欲しいと思う。
- ・地域が連携して対応することが必要だと思う
- ・いつ起こるかわからないものなので、いつでも対応できる体制は、整えたいと思う。天災は、防げないので、おこった時に、地域で力を合わせて対応したい。先代の皆様もそうやって乗り越えてきた。台風のように、来ることがわかっている、犠牲者があるので、行政にたよらない地域コミュニティーをつくる努力をしている。

③ 家族を守るための避難のあり方について

- ・いつ、何時頃とかが、全くわからない中で、不安はありますが、日常を大切にしつつ、津波が、発生したら、避難場所とされている所も危険なので、少しの余裕があるならば、自宅から離れる。日頃から、家族で、最終的に集まる場所等、話し合っている。
 - ・自治会が毎年実施している防災訓練には参加をしているが、災害はいつ発生するかわからないので、休日で家族がそろっている場合、勤務中で、自宅には、高齢の両親のみ等、様々な状況を想定した対応を考える必要があると思っています。

3. 過去の教訓

① 過去の地震時の教訓等

- ・昭和19年の地震の時は小学校5年でした怖かった事はよくおぼえています。地震発生時から毎日の様に学校の校舎がゆれ、かべがくずれた事で先生から色々注意が有った事もよくおぼえています。今もその時の事が目に浮んで来ました 先生の言葉はおちついて行動して下さいと云う事が今でも思い出されます
- ・震度5以上の経験がないため恐さを知らないため安意に考えているのかもしれませんが、映像や、体験者の話を聞く機会を経験したい。

4. 懸念、疑問

① 南海トラフ巨大地震の想定内容、発生確率、発生時期について

- ・三連動がおこる確率はどれくらいあるのですか。今までもないようなことを大きく報道することは良くないと思う。「そなえあれば」というが、住民の不安をつのっているだけではないのか、私は思う。

② 揺れに対する懸念

- ・地震で建物が被害を受けるかもしれないので心配です。海拔が低いから
- ・近くの公民館へ避難するのが最適と考えますが、現在ある公民館の建物の耐震性に不安を感じております。そしてそこ迄行くのに川を渡る橋にも心配しています。川を渡らずに行ける中学校迄は遠いし、従って近くの空地（広場）だけを予定しております。

③ 土砂災害への懸念

- ・今まで津波の心配ばかりしていたが、北海道の地震を知って、土砂災害のおそろしさを知った。山間部に住んでおり、避難場所を考える必要があると思った。

④ 住民への防災意識の浸透に対する懸念

- ・防災士の資格を取得して、地域住民に説明する機会がある。地域の住民に対して、必要な知識等を教えることに、時間を要する。避難すれば良いのでも、非常袋など緊急時に必要な物を用意することが大事と思う。住民がどれだけ、備えることができるか、不安です。

⑤ 防災意識の低下に対する懸念

- ・大きな地震がくると言われて久しいが、東海地方とりわけ静岡県以外の地域で、大規模な災害が発生している。温暖な気候で、のんびりとした風土もあるが、自分も含めて自然災害に対する危機意識の欠如が感じられる。10月の台風による数日間の停電だけでも大混乱が生じた様に、今南海トラフ地震が起きたらと考えるとぞっとする。また防災対応についても行政に頼り過ぎる傾向にあるのも問題だと考えます。「自分の身は自分で守る」防災意識をもっと持つことが大切だと有識者や防災の専門家が事あるごとに啓蒙していく必要性を感じます。
- ・もっと防災に参加してほしい

⑥ 実際の災害時のパニック・デマ発生への懸念

- ・日頃地震津波は頭に置いて生活しておるつもりですが、パニック状態に落ちると考えています
- ・質問に答えているうちに真剣に考えておくべきだと思います。伊東も関東地震で波にさらわれた話を聞いておるが過去の震災のこわさもテレビから情報知ることが出来ておるだけに「いざ！！」と云う時、自分がどれだけ落ち着いて行動出来るか……少し不安です。誤報が流れないように落ち着いて行動するよう今から心がまえだけはしております。
- ・高齢なので、いざという時にパニックになり、どうして良いかわからなくなると思う。
- ・デマ等が流れるのが一番心配である

⑦ 通勤、通学時の被災に対する対応への懸念

- ・子供が通学で東海道線を利用する可能性があるので津波に対して不安があります。途中で地震が発生し、最寄り駅に停車した際、安全に避難できる対策をして欲しいです。駅からすぐに高台への階段があれば良いですが、高い建物が近くに無い駅はもう避難すら出来ません。子供が地元以外でも、分かりやすく安全に避難できる対策をお願いします。

5. 避難しない理由やあきらめ、対策実施上の課題、楽観

① 巨大地震・津波に対する避難のあきらめ

- ・自然に人間は簡単に勝てない
- ・あまり地震の事は考えていません。非常持ち出し品も用意していないし、先の事は何も思っていません。海の近くに住んでいますし、もうあきらめムードで過ごしています。
- ・いつ、どこで、発生するか、わからないので運を天にまかせる以外仕方ないと思う。
- ・なるようにしかならないと思う。静かに死にたい。

② 避難対策の実施に関する経済的な課題

- ・災害は、起こってからでないと、恐さがわからずに「準備しなくても何とかなる」と思ってしまう人が多いのではないかと思います。しかし、起こってからでは遅いので、今から少しずつ防災対策をしておかなければと、日々実感します。でも実際、日々の生活におわれて余裕がないので、対策はできないと思います…。
- ・家が古いため耐震工事をしなければと思っても主人が亡くなったためとても自分では費用の工面が出来ません。60代ではどうしようもないと思っています。
- ・正直、ピンと来ない。きっとその時に困ると思うのに、日々の生活のゆとりのなさ、忙しさを後まわしにしていることが多いとアンケートをしていて感じた。経済的にもゆとりがない為、家具固定、非常もちだしのものを買うことができない。その中で家族と話をしてどこに逃げるかは決められるのでそこはやれると思った。地震…こないでほしい。

③ 避難に支援が必要であることや、知識がないことによる不安やあきらめ

- ・体が不自由のため無理と思う。
- ・本当にどんな事がおこるのかわからないので何を準備したらいいのかもわからない。
- ・1人ぐらしなので年も高齢者ですから避難先も近くにないので諦めています
- ・近くに小学校があり避難場所になっているが、収容力がおそらくない事と、子供が障害者な為、連れて避難出来ない。・医療器具も必需な為、電気も確保出来れば……
- ・家族には、障害者がいるため、車イスでの避難は出来ない。又一般的な避難所では生活出来ない。大地震が発生しても、避難する事は出来ない。

④ 複合災害時の避難の困難さ

- ・地震発生に伴い火山噴火が起った場合はどこに避難したらよいか分からない 具体的に富士山麓に住んでいるため、津波、土砂災害は考えていないが火山噴火の噴石、溶岩等の避難場所について

⑤ 長期の対策継続への疲労感

- ・長い間、東海地震等ずっと言われて来ましたが備蓄品等償味期間切等再度行なう事に疲れました。 行政にTEL等、前回の停電の時全々通じませんでした。自宅の回りは地形、水害の心配はあまりありませんが自宅本体が老朽化の為、心配、後継者がありませんので改築、対震は予定にありません 家具等の固定化はしてあります。自家発電機がとても便利でした。停電の際、正確なじょう報が分からず、冷凍食品、煙草、ジュースの販売機大損害、電気のありがたみ痛感！

⑥ 予知情報の精度の低さ

- ・過剰な警戒はしたくない（予知が不十分だから）予知の確立が上がれば早目の行動を起こす。

⑦ 楽観視

- ・こない事をいのる。
- ・生きている間は来ないと思う